

[平成30年度設置]

計画の区分： 研究科の専攻の設置又は課程の変更

注1

北海道大学大学院 生命科学院 ソフトマター専攻

注2

【事前伺い】 設置に係る設置計画履行状況報告書

国立大学法人北海道大学
平成30年5月1日現在

(注) 1 「計画の区分」は設置時の基本計画書「計画の区分」と同様に記載してください。

2 大学院の場合は、表題を「〇〇大学大学院・・・」と記入してください。

設置時から対象学部等の名称変更があった場合には、表題には設置時の旧名称を記載し、その下欄に

() 書きにて、現在の名称を記載してください。

例) 〇〇大学 △△学部 □□学科

(◇◇学部(平成◇◇年度より学部名称変更))

表題は「計画の区分」に従い、記入してください。

例)

- 大学新設の場合：「〇〇大学」
- 学部の設置の場合：「〇〇大学 △△学部」
- 学部の学科の設置の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科」
- 短期大学の学科の設置の場合：「〇〇短期大学 △△学科」
- 大学院の研究科の設置の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科」
- 通信教育課程の開設の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科(通信教育課程)」

3 大学番号の欄については、平成29年3月31日付事務連絡「大学等の設置に係る設置計画履行状況報告書等の提出について(依頼)」の別紙に記載のある大学番号を記載してください。

目次

＜北海道大学大学院 生命科学院 ソフトマター専攻（修士課程，博士後期課程）＞		ページ
1. 調査対象大学等の概要等	・・・・・・・・・・・・・・・・	1
2. 授業科目の概要	・・・・・・・・・・・・・・・・	8
3. 施設・設備の整備状況、経費	・・・・・・・・・・・・・・・・	14
4. AC対象学部等を含む大学等の状況	・・・・・・・・・・・・・・・・	15
5. 教員組織の状況	・・・・・・・・・・・・・・・・	20
6. 留意事項等に対する履行状況等	・・・・・・・・・・・・・・・・	37
7. その他全般的事項	・・・・・・・・・・・・・・・・	38

1 調査対象大学等の概要等

(1) 設置者

国立大学法人 北海道大学

(2) 大学名 北海道大学

(3) 大学の位置

〒060-0810

北海道札幌市北区北10条西8丁目

(〒060-0808：北海道札幌市北区北8条西5丁目)

- (注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を()書きで記入してください。
・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

(4) 管理運営組織

職名	設置時	変更状況	備考
学長	(ナワ トヨハル) 名和 豊春 (平成29年4月1日)		
学院長	(ヤマシタ マサカネ) 山下 正兼 (平成29年4月1日)		

- (注) ・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を()書きで記入してください。

(例) 平成29年度に報告済の内容 → (29)

平成30年度に報告する内容 → (30)

- ・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載(昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正)するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。
- ・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。
- ・大学独自の職名を設けていて当該職位がない場合は、各職に相当する職名の方を記載してください。

〈修士課程〉

(5) 調査対象研究科等の名称, 定員, 入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部/学科または研究科の専攻等, 定員を定めている組織ごとに記入してください(入試区分ごとではありません)。
- ・ 様式は, 平成28年度開設の博士後期課程の場合(平成30年度までの3年間)ですが, 開設年度・修業年限に合わせて作成してください。(修業年限が2年以下の場合には欄を削除し, 4年以上の場合には, 欄を設けてください。)

(5) - ① 調査対象研究科等の名称等

調査対象研究科等の名称(学位)	学位又は学科の分野	設置時の計画			備考
		修業年限	入学定員	収容定員	
大学院生命科学院 ソフトマター専攻 (修士課程) 修士(ソフトマター科学)	理学関係	2年	16人	32人	基礎となる学部等 理学部生物科学科 高分子機能学専修 分野

- (注) ・ 「備考」に基礎となる学部等の名称を記入してください。
- ・ 定員を変更した場合は, 「備考」に変更前の人数, 変更年月及び報告年度を()書きで記入してください。
- ・ 学生募集停止を予定している場合は, 「備考」にその旨記載してください。
- ・ 「学位又は学科の分野」には, 「認可申請書」又は「設置届出書」の「教育課程等の概要(別記様式第2号(その2の1))」の「学位又は学科の分野」と同様に記入してください。

(5) - ② 調査対象研究科等の入学者の状況

区分	報告年度		平均入学定員 超過率		備考
	平成30年度	平成31年度			
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
A 入学定員	16人 (-) [若干名]		人 人 () () [] []		1.50倍
志願者数	25 (-) [1]	(-) () []	() () []	() () []	
受験者数	25 (-) [1]	(-) () []	() () []	() () []	
合格者数	24 (-) [1]	(-) () []	() () []	() () []	
B 入学者数	24 (-) [1]	(-) () []	() () []	() () []	
入学定員超過率 B/A	1.50				

- (注) ・ 数字は, 平成30年5月1日現在の数字を記入してください。
- ・ ()内には, 社会人の状況について**内数**で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
- ・ 「社会人」については, 認可申請書において貴学が定める社会人の定義に従って記入してください。
- ・ []内には, 留学生の状況について**内数**で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
- ・ 留学生については, 「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により, 我が国の大学(大学院を含む), 短期大学, 高等専門学校, 専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
- ・ 短期交換留学生など, 定員内に含めていない学生については記入しないでください。
- ・ 転入学生は記入しないでください。
- ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は, 春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は, その他の学期欄は「-」を記入してください。また, その他の学期に入学定員を設けている場合は, 備考欄にその人数を記入してください。
- ・ 「入学定員超過率」については, **各年度の春季入学とその他を合計した入学定員, 入学者数で算出**してください。なお, 計算の際は**小数点以下第3位を切り捨て, 小数点以下第2位まで**記入してください。
- ・ 「平均入学定員超過率」には, 開設年度から提出年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。なお, 計算の際は「**入学定員超過率**」と同様にしてください。

(5) - ③ 調査対象研究科等の在学者の状況

学 年	報告年度		平成30年度		平成31年度		備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
1年次	24 [1] (-)	1 [0] (-)	[]	[]	[]	[]	平成30年4月1日に生命科学院生命科学専攻に入学後、平成30年4月1日付けで生命科学専攻からソフトマター専攻に転専攻した者1名については、「その他の学期」に計上。
2年次	/		[]	[]	[]	[]	
計	25 [1] (-)		[]	[]	[]	[]	

- (注) ・ 数字は、平成30年5月1日現在の数字を記入してください。
- ・ []内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
 - ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格（いわゆる「留学ビザ」）により、我が国の大学（大学院を含む。）、短期大学、高等専門学校、専修学校（専門課程）及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
 - ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。
 - ・ 転入学生も含めて記入してください。その際、備考欄に人数の内訳を記入してください。
 - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期（春季入学以外の学期区分を設けている場合）に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
 - ・ 「計」については、**各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数**を記入してください。
 - ・ ()内には、**留年者の状況について、内数で記入してください。**該当がない年には「-」を記入してください。

〈修士課程〉

(5) -④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区分 対象年度	在学者数(b)	退学者数(a)	内訳			主な退学理由
			入学した年度	退学者数	退学者数のうち留学生数	
平成30年度	25人	0人	平成30年度	0人	0人	
合計	25人	0人				

(注)・数字は、平成30年5月1日現在の数字を記入してください。

- 各年度の在学者数については、該当年度に在学した人数を記入してください。(途中で退学者がいた場合でも、その退学者数を減らす必要はありません。)
- 内訳については、退学した学生が入学した年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
- 在学者数や退学者数には編入学生や転入学生も含めて記入してください。
- 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により、我が国の大学(大学院を含む。)、短期大学、高等専門学校、専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記入してください。
- 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。
- 「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(〇人)」というように、その人数も含めて記入してください。
(記入項目例)・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学
・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

(5) -⑤ 調査対象学部等の年度ごとの退学者の割合

【平成30年度】

$$\frac{\text{平成30年度の退学者数(a)}}{\text{平成30年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{25} = \boxed{0} \%$$

(注)・小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

〈博士後期課程〉

(5) 調査対象研究科等の名称, 定員, 入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部の学科または研究科の専攻等, 定員を定めている組織ごとに記入してください(入試区分ごとではありません)。
- ・ 様式は, 平成28年度開設の博士後期課程の場合(平成30年度までの3年間)ですが, 開設年度・修業年限に合わせて作成してください。(修業年限が2年以下の場合には欄を削除し, 4年以上の場合には, 欄を設けてください。)

(5) - ① 調査対象研究科等の名称等

調査対象研究科等の名称(学位)	学位又は学科の分野	設置時の計画			備考
		修業年限	入学定員	収容定員	
大学院生命科学院 ソフトマター専攻 (博士後期課程) 博士(ソフトマター科学)	理学関係	3年	6人	18人	基礎となる学部等 理学部生物科学科 高分子機能学専修 分野

- (注) ・ 「備考」に基礎となる学部等の名称を記入してください。
- ・ 定員を変更した場合は, 「備考」に変更前的人数, 変更年月及び報告年度を()書きで記入してください。
- ・ 学生募集停止を予定している場合は, 「備考」にその旨記載してください。
- ・ 「学位又は学科の分野」には, 「認可申請書」又は「設置届出書」の「教育課程等の概要(別記様式第2号(その2の1))」の「学位又は学科の分野」と同様に記入してください。

(5) - ② 調査対象研究科等の入学者の状況

区分	報告年度		平成30年度		平成31年度		平成32年度		平均入学定員 超過率	備考
	平成30年度	平成31年度	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期		
A 入学定員	6人		()	()	()	()	()	()	0.83倍 定員を満たすべく, 平成30年10月入学の入試を実施する計画を立てている。 なお, 外国人留学生等から入学に関する問合せが来ており, 10月入学の需要はありと考えている。	
志願者数	5	()	()	()	()	()	()	()		
受験者数	5	()	()	()	()	()	()	()		
合格者数	5	()	()	()	()	()	()	()		
B 入学者数	5	()	()	()	()	()	()	()		
入学定員超過率 B/A	0.83									

- (注) ・ 数字は, 平成30年5月1日現在の数字を記入してください。
- ・ ()内には, 社会人の状況について内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
- ・ 「社会人」については, 認可申請書において貴学が定める社会人の定義に従って記入してください。
- ・ []内には, 留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
- ・ 留学生については, 「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により, 我が国の大学(大学院を含む), 短期大学, 高等専門学校, 専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
- ・ 短期交換留学生など, 定員内に含めていない学生については記入しないでください。
- ・ 転入学生は記入しないでください。
- ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は, 春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は, その他の学期欄は「-」を記入してください。また, その他の学期に入学定員を設けている場合は, 備考欄にその人数を記入してください。
- ・ 「入学定員超過率」については, 各年度の春季入学とその他を合計した入学定員, 入学者数で算出してください。なお, 計算の際は小数点以下第3位を切り捨て, 小数点以下第2位まで記入してください。
- ・ 「平均入学定員超過率」には, 開設年度から提出年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。なお, 計算の際は「入学定員超過率」と同様にしてください。

(5) - ③ 調査対象研究科等の在学者の状況

学 年	報告年度		平成30年度		平成31年度		平成32年度		備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
1年次	5 [0] (-)	[] ()							
2年次	/		[] ()						
3年次	/		/		[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	
計	5 [0] (-)	[] ()							

- (注) ・ 数字は、平成30年5月1日現在の数字を記入してください。
- ・ []内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
 - ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格（いわゆる「留学ビザ」）により、我が国の大学（大学院を含む。）、短期大学、高等専門学校、専修学校（専門課程）及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
 - ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。
 - ・ 転入学生も含めて記入してください。その際、備考欄に人数の内訳を記入してください。
 - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期（春季入学以外の学期区分を設けている場合）に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
 - ・ 「計」については、**各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数**を記入してください。
 - ・ ()内には、**留年者の状況**について、内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。

〈博士後期課程〉

(5) -④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区分 対象年度	在学者数(b)	退学者数(a)	内訳			主な退学理由
			入学した年度	退学者数	退学者数のうち留学生数	
平成30年度	5人	0人	平成30年度	0人	0人	
合計	5人	0人				

(注)・数字は、平成30年5月1日現在の数字を記入してください。

- 各年度の在学者数については、該当年度に在学した人数を記入してください。(途中で退学者がいた場合でも、その退学者数を減らす必要はありません。)
- 内訳については、退学した学生が入学した年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
- 在学者数や退学者数には編入学生や転入学生も含めて記入してください。
- 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により、我が国の大学(大学院を含む。)、短期大学、高等専門学校、専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記入してください。
- 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。
- 「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(〇人)」というように、その人数も含めて記入してください。
(記入項目例)・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学
・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

(5) -⑤ 調査対象学部等の年度ごとの退学者の割合

【平成30年度】

$$\frac{\text{平成30年度の退学者数(a)}}{\text{平成30年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{5} = \boxed{0} \%$$

(注)・小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

2 授業科目の概要

<大学院 生命科学学院 ソフトマター専攻（修士課程）>

(1) -① 授業科目表

【認可時又は届出時】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
専門科目	ソフトマター科学研究	1~2通	10			5	4	3	7		
	ソフトマター科学論文講読Ⅰ（リーディング）	1~2通	2			5	4	3	7		
	ソフトマター科学論文講読Ⅱ（ライティング）	1~2通	2			5	4	3	7		
	ソフトマター科学実習	1~2通	2			5	4	3	7		
	ソフトマター科学概論	1①	2			5	4	3			兼1
	ソフトマター物理学特論（連続体力学）	1②	1			1	1		1		
	ソフトマター物理学特論（高分子物理）	1③	1			1					兼1
	ソフトマター物理学特論（非線形現象）	1④	1			1					兼1
	ソフトマター解析学特論（ソフトマター構造解析）	1②	1			1					兼1
	ソフトマター解析学特論（分光学）	1③	1			1	1	1	1		兼1
	ソフトマター分子科学特論（高分子化学）	1②	1			1			1		兼1
	ソフトマター分子科学特論（超分子化学）	1③	1			1			1		兼1
	ソフトマター設計学特論（ソフトマター工学）	1②	1			1	1		1		
	ソフトマター設計学特論（インフォマティクス）	1③	1			1					兼1
	ソフトマター医工学特論（ソフトマター基礎医学入門）	1②	1			1			1		
	ソフトマター医工学特論（再生・臨床医学入門）	1③	1					1			兼1
	ソフトマター医工学特論（メカノバイオロジー）	1④	1					1			兼1
	ソフトマター科学特別講義	1②	1								兼1
	生命融合科学概論	1①	2								兼13
	生命科学学院共通科目	特別講義	1・2通	1							
特別演習		1・2通	1								兼1
特別実習		1・2通	1								兼1
海外留学		1・2通	1			5	4				

【平成30年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
専門科目	ソフトマター科学研究	1~2通	10			6	4	2	5		
	ソフトマター科学論文講読Ⅰ（リーディング）	1~2通	2			6	4	2	5		
	ソフトマター科学論文講読Ⅱ（ライティング）	1~2通	2			6	4	2	5		
	ソフトマター科学実習	1~2通	2			6	4	2	5		
	ソフトマター科学概論	1①	2			5	3				兼9
	ソフトマター物理学特論（連続体力学）	1②	1				1				
	ソフトマター物理学特論（高分子物理）	1③	1			1				1	
	ソフトマター物理学特論（非線形現象）	1④	1			1					
	ソフトマター解析学特論（ソフトマター構造解析）	1④	1			1					兼1
	ソフトマター解析学特論（分光学）	1③	1			1	1				
	ソフトマター分子科学特論（高分子化学）	1②	1			1	1				
	ソフトマター分子科学特論（超分子化学）	1③	1			1					
	ソフトマター設計学特論（生物規範工学）	1②	1			1				1	兼1
	ソフトマター設計学特論（インフォマティクス）	1④	1			1					兼1
	ソフトマター医工学特論（ソフトマター基礎医学入門）	1②	1					1			兼6
	ソフトマター医工学特論（再生・臨床医学入門）	1③	1					1			兼6
	ソフトマター医工学特論（メカノバイオロジー）	1④	1				1			1	
	ソフトマター科学特別講義（生命科学NMR分光学特論）	1②	1					1			兼1
	ソフトマター科学特別講義（生命科学NMR特別実習）	1②	1					1			兼3
	生命融合科学概論	1①	2			5	2				兼9
生命科学学院共通科目	特別講義	1・2通	1								兼1
	特別演習	1・2通	1								兼1
	特別実習	1・2通	1								兼1
	海外留学	1・2通	1			6	4				

- (注) ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第2号（その2の1）に準じて作成してください。
 ・ 設置認可時又は届出時の授業科目全て（兼任、兼担教員が担当する科目を含む。）を黒字で記載してください。
 その上で、認可時又は届出時から変更となっている箇所は太字の赤字としてください。
 ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても記入してください。
 ・ 1ページ目には認可時又は届出時と平成30年度の表を記入してください。
 ・ 不要な年度（平成28年度開設であれば平成27年度、平成29年度開設であれば平成27年度及び平成28年度、平成30年度開設であれば平成27年度から平成29年度）の表は適宜削除し、詰めてください。
 （2つの表が1ページに表示されるようにしてください。）

〈修士課程〉

(1) ②授業科目表に関する変更内容

【平成30年度】

◎専任教員等の配置の変更

- ・教員の採用、昇任及び就任辞退による退職に伴い、「ソフトマター科学研究」の専任教員等の配置を「教授5」から「教授6」に、「講師3」から「講師2」に、「助教7」から「助教5」に変更。
- ・教員の採用、昇任及び就任辞退による退職に伴い、「ソフトマター科学論文講読Ⅰ（リーディング）」の専任教員等の配置を「教授5」から「教授6」に、「講師3」から「講師2」に、「助教7」から「助教5」に変更。
- ・教員の採用、昇任及び就任辞退による退職に伴い、「ソフトマター科学論文講読Ⅱ（ライティング）」の専任教員等の配置を「教授5」から「教授6」に、「講師3」から「講師2」に、「助教7」から「助教5」に変更。
- ・教員の採用、昇任及び就任辞退による退職に伴い、「ソフトマター科学実習」の専任教員等の配置を「教授5」から「教授6」に、「講師3」から「講師2」に、「助教7」から「助教5」に変更。
- ・授業の内容を再検討し、適切な教育効果を図るため、「ソフトマター科学概論」の専任教員等の配置を「准教授4」から「准教授3」に、「講師3」から「講師0」に、「兼任・兼任1」から「兼任・兼任9」に変更。
- ・教員の就任辞退による退職及び授業の内容を再検討し、「ソフトマター物理学特論（連続体力学）」の専任教員等の配置を「教授1」から「教授0」に、「助教1」から「助教0」に変更（准教授1名が担当）。
- ・適切な教育効果を図るため、「ソフトマター物理学特論（高分子物理）」の専任教員等の配置を「助教0」から「助教1」に、「兼任・兼任1」から「兼任・兼任0」に変更。
- ・適切な教育効果を図るため、「ソフトマター物理学特論（非線形現象）」の専任教員等の配置を「兼任・兼任1」から「兼任・兼任0」に変更（教授1名が担当）。
- ・授業内容を再検討した結果、「ソフトマター解析学特論（分光学）」の専任教員等の配置を「講師1」から「講師0」に、「助教1」から「助教0」に、及び「兼任・兼任1」から「兼任・兼任0」に変更（教授1名及び准教授1名が担当）。
- ・適切な教育効果を図るため、「ソフトマター分子科学特論（高分子化学）」の専任教員等の配置を「准教授0」から「准教授1」に、「助教1」から「助教0」に、及び「兼任・兼任1」から「兼任・兼任0」に変更。
- ・教員の就任辞退による退職等のため、「ソフトマター分子科学特論（超分子化学）」の専任教員等の配置を「助教1」から「助教0」に、及び「兼任・兼任1」から「兼任・兼任0」に変更（教授1名が担当）。
- ・授業内容を再検討した結果、「ソフトマター設計学特論（生物規範工学）」の専任教員等の配置を「准教授1」から「准教授0」に、及び「兼任・兼任0」から「兼任・兼任1」に変更。（兼任教員他、教授1名及び助教1名が担当）
- ・適切な教育効果を図るため、「ソフトマター医工学特論（ソフトマター基礎医学入門）」の専任教員等の配置を「教授1」から「教授0」に、「准教授0」から「准教授1」に、「助教1」から「助教0」に、及び「兼任・兼任0」から「兼任・兼任6」に変更。
- ・適切な教育効果を図るため、「ソフトマター医工学特論（再生・臨床医学入門）」の専任教員等の配置を「兼任・兼任1」から「兼任・兼任6」に変更。
- ・適切な教育効果を図るため、「ソフトマター医工学特論（メカノバイオロジー）」の専任教員等の配置を「教授0」から「教授1」に、「講師1」から「講師0」に、「助教0」から「助教1」に、及び「兼任・兼任1」から「兼任・兼任0」に変更。
- ・適切な教育効果を図るため、「ソフトマター科学特別講義（生命科学NMR分光光学特論）」の専任教員等の配置を「准教授0」から「准教授1」に変更。
- ・適切な教育効果を図るため、「生命融合科学概論」の専任教員等の配置を「教授0」から「教授5」に、「准教授0」から「准教授2」に、及び「兼任・兼任13」から「兼任・兼任9」に変更。
- ・教員の昇任のため、「海外留学」の専任教員等の配置を「教授5」から「教授6」に変更。

◎授業科目名の変更

- ・教育効果の向上を図るため、授業科目の名称を「ソフトマター設計学特論（ソフトマター工学）」から「ソフトマター設計学特論（生物規範工学）」に変更。
- ・生命科学NMR分光光学に係る理解を促すため、授業科目に（講義題目）を付し、授業科目の名称を「ソフトマター科学特別講義」から「ソフトマター科学特別講義（生命科学NMR分光光学特論）」に変更。

◎新規科目の追加

- ・実践を通して教育効果を向上させるため、講義「ソフトマター科学特別講義（生命科学NMR分光光学特論）」に対応する演習科目「ソフトマター科学特別講義（生命科学NMR特別実習）」を追加。

◎開講時期の変更

- ・ソフトマター物理学特論（高分子物理）よりも後に実施するほうがより高い教育効果が得られるため、「ソフトマター解析学特論（ソフトマター構造解析）」について、夏ターム（1②）から、冬ターム（1④）の開講に変更。
- ・ソフトマター物理学特論（高分子物理）よりも後に実施するほうがより高い教育効果が得られるため、「ソフトマター設計学特論（インフォマティクス）」について、秋ターム（1③）から、冬ターム（1④）の開講に変更。

◎兼任・兼任教員数の変更

- ・届出時に配置を予定していた兼任・兼任教員27名のうち、4名が就任辞退（退職2名、業務多忙により兼任が困難となった者2名）したことから、「特別講義」、「特別演習」、「特別実習」及び「ソフトマター設計学特論（インフォマティクス）」は、他の兼任・兼任教員が担当することとなった。なお、平成30年度から新たに3名の兼任教員が就任したことから、兼任・兼任教員数は26名となっている。

- (注) ・ 変更内容（配当年次の変更、専任教員等の配置の変更、授業科目名の変更、新規科目の追加など）を箇条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ 変更内容には、授業科目の未開講や廃止については記入しないでください。
 - ・ 不要な年度（平成28年度開設であれば平成27年度、平成29年度開設であれば平成27年度及び平成28年度、平成30年度開設であれば平成27年度から平成29年度）の表は適宜削除してください。

(2) 授業科目数

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計（A）	必修	選択	自由	計	
5 科目	18 科目	0 科目	23 科目	5 科目 [0]	19 科目 [1]	0 科目 [0]	24 科目 [1]	

- (注) ・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、[] 内に、設置時の計画からの増減を記入してください。（記入例：1科目減の場合：△1）

〈修士課程〉

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由, 代替措置の有無
1						該当なし
2						
3						

- (注) ・ 配当年次に達しているにも関わらず, 何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお, 理由については可能な限り具体的に記入してください。
 ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については, 記入しないでください。
 ・ 教職大学院の場合は, 「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由, 代替措置の有無
1						該当なし
2						
3						

- (注) ・ 設置時の計画にあり, 何らかの理由で廃止(教育課程から削除)した授業科目について記入してください。なお, 理由については可能な限り具体的に記入してください。
 ・ 教職大学院の場合は, 「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

該当なし

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する「大学の所見」及び「学生への周知方法」を記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目(3)と廃止科目(4)の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計(A)}} = \frac{0}{23} = \boxed{}\%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て, 小数点以下第2位まで表示されます。
 ・ 「未開講科目と廃止科目の計」が、「(3)未開講科目」と「(4)廃止科目」の合計数となるように留意してください。

2 授業科目の概要

<大学院 生命科学院 ソフトマター専攻（博士後期課程）>

(1) ① 授業科目表

【認可時又は届出時】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
専門科目	ソフトマター科学特別研究	1~3通	10			5	4	3	7		
	研究科目群	ソフトマター科学論文講読	1~3通	2			5	4	3	7	
		国際共同研究提案演習	1~3通	1			5				
		小人数討論型育成プログラム	1①	2			1				兼1
	国際化科目群	博士海外研究	1~3通	1			5	4	3	7	
		国際学会口頭発表	1~3通	1			5				兼1
		国際研究集会企画プログラム	1~3通	2				1			
	キャリア実践	理系・科学技術系大学院生のステップアップキャリア形成	1①	1							兼1
		博士研究者のキャリア開発研究	1①	1							兼1
	生命科学院共通科目	特別講義	1・2通	1							兼1
特別演習		1・2通	1							兼1	
特別実習		1・2通	1							兼1	
海外留学		1・2通	1			5	4				

【平成30年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
専門科目	ソフトマター科学特別研究	1~3通	10			7	5	2	5		
	研究科目群	ソフトマター科学論文講読	1~3通	2			7	5	2	5	
		国際共同研究提案演習	1~3通	1			6				
		小人数討論型育成プログラム	1①	2			1				兼1
	国際化科目群	博士海外研究	1~3通	1			6	4	2	5	兼2
		国際学会口頭発表	1~3通	1			6				兼1
		国際研究集会企画プログラム	1~3通	2				1			
	キャリア実践	理系・科学技術系大学院生のステップアップキャリア形成	1①	1							兼1
		博士研究者のキャリア開発研究	1①	1							兼1
	生命科学院共通科目	特別講義	1・2通	1							兼1
特別演習		1・2通	1							兼1	
特別実習		1・2通	1							兼1	
海外留学		1・2通	1			6	4				

- (注) ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第2号（その2の1）に準じて作成してください。
 ・ 設置認可時又は届出時の授業科目全て（兼任、兼任教員が担当する科目を含む。）を黒字で記載してください。
 その上で、認可時又は届出時から変更となっている箇所は太字の赤字としてください。
 ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても記入してください。
 ・ 1ページ目には認可時又は届出時と平成30年度の表を記入してください。
 ・ 不要な年度（平成28年度開設であれば平成27年度、平成29年度開設であれば平成27年度及び平成28年度、平成30年度開設であれば平成27年度から平成29年度）の表は適宜削除し、詰めてください。
 （2つの表が1ページに表示されるようにしてください。）

〈博士後期課程〉

(1) ②授業科目表に関する変更内容

【平成30年度】

<p>◎専任教員等の配置の変更</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教員の採用、昇任及び就任辞退による退職に伴い、「ソフトマター科学特別研究」の専任教員等の配置を「教授5」から「教授7」に、「准教授4」から「准教授5」に、「講師3」から「講師2」に、「助教7」から「助教5」に変更。 ・教員の採用、昇任及び就任辞退による退職に伴い、「ソフトマター科学論文講読」の専任教員等の配置を「教授5」から「教授7」に、「准教授4」から「准教授5」に、「講師3」から「講師2」に、「助教7」から「助教5」に変更。 ・教員の採用に伴い、「国際共同研究提案演習」の専任教員等の配置を「教授5」から「教授6」に変更。 ・教員の採用、昇任及び就任辞退による退職並びに適切な教育効果を図るため、「博士海外研究」の専任教員等の配置を「教授5」から「教授6」に、「講師3」から「講師2」に、「助教7」から「助教5」、及び「兼任・兼任0」から「兼任・兼任2」に変更。 ・教員の採用に伴い、「国際学会口頭発表」の専任教員等の配置を「教授5」から「教授6」に変更。 ・教員の採用に伴い、「海外留学」の専任教員等の配置を「教授5」から「教授6」に変更。 <p>◎兼任・兼任教員数の変更</p> <ul style="list-style-type: none"> ・届出時に配置を予定していた兼任・兼任教員7名のうち、4名が就任辞退（退職2名、業務多忙により兼任が困難となった者2名）したことから、「特別講義」、「特別演習」、「特別実習」及び「博士研究者のキャリア開発研究」は、他の兼任・兼任教員が担当することとなった。なお、平成30年度から新たに2名の兼任教員が就任したことから、兼任・兼任教員数は5名となっている。

- (注) ・ 変更内容（配当年次の変更、専任教員等の配置の変更、授業科目名の変更、新規科目の追加など）を箇条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ 変更内容には、授業科目の未開講や廃止については記入しないでください。
- ・ 不要な年度（平成28年度開設であれば平成27年度、平成29年度開設であれば平成27年度及び平成28年度、平成30年度開設であれば平成27年度から平成29年度）の表は適宜削除してください。

(2) 授業科目数

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計(A)	必修	選択	自由	計	
1 科目	12 科目	0 科目	13 科目	1 科目 [0]	12 科目 [0]	0 科目 [0]	13 科目 [0]	

- (注) ・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、[] 内に、設置時の計画からの増減を記入してください。（記入例：1科目減の場合：△1）

〈博士後期課程〉

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由, 代替措置の有無
1						該当なし
2						
3						

- (注) ・ 配当年次に達しているにも関わらず、何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については、記入しないでください。
 - ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由, 代替措置の有無
1						該当なし
2						
3						

- (注) ・ 設置時の計画にあり、何らかの理由で廃止（教育課程から削除）した授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

該当なし

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する「大学の所見」及び「学生への周知方法」を記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目(3)と廃止科目(4)の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計(A)}} = \frac{0}{13} = \boxed{}\%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。
- ・ 「未開講科目と廃止科目の計」が、「(3)未開講科目」と「(4)廃止科目」の合計数となるように留意してください。

3 施設・設備の整備状況、経費

区 分		内 容				備考		
(1) 校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	北海道大学全体		
	校舎敷地	923,867 m ²	0 m ²	0 m ²	923,867 m ²			
	運動場用地	175,488 m ²	0 m ²	0 m ²	175,488 m ²			
	小 計	1,099,355 m ²	0 m ²	0 m ²	1,099,355 m ²			
	そ の 他	659,049,323 m ²	0 m ²	0 m ²	659,049,323 m ²			
	合 計	660,148,678 m ²	0 m ²	0 m ²	660,148,678 m ²			
(2) 校 舎	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	北海道大学全体			
	625,868m ² (625,868m ²)	0 m ² (0 m ²)	0 m ² (0 m ²)	625,868m ² (625,868m ²)				
(3) 教 室 等	講 義 室	演 習 室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設			
	10室	5室	40室	1室 (補助職員 0人)	0室 (補助職員 0人)			
(4) 専任教員研究室	新設学部等の名称			室 数				
	生命科学学院ソフトマター専攻			17 室				
(5) 図 書 ・ 設 備	新設学部等の 名称	図 書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種		視聴覚資料 点	機 械 ・ 器 具 点	標 本 点	学院単位での特定が不 能なため、北海道大学 全体の数
			電子ジャーナル 〔うち外国書〕					
	生命科学学院 ソフトマター 専攻	3,740,130 〔1,748,330〕	85,135 〔36,991〕	22,120 〔20,825〕	90,076	0	0	
		3,740,130 〔1,748,330〕	85,135 〔36,991〕	22,120 〔20,825〕	(90,076)	(0)	(0)	
	計	3,740,130 〔1,748,330〕	85,135 〔36,991〕	22,120 〔20,825〕	90,076	0	0	
3,740,130 〔1,748,330〕		85,135 〔36,991〕	22,120 〔20,825〕	(90,076)	(0)	(0)		
(6) 図 書 館	面 積		閱 覧 座 席 数		収 納 可 能 冊 数		同上	
	33,542 m ²		2,224 席		425 万冊			
(7) 体 育 館	面 積		体育館以外のスポーツ施設の概要					同上
	7,429 m ²		テニスコート(11)、野球場(3)、プール(2)、ホッケー・ハンドボール場(1)、陸上競技場(1)、サッカー・ラグビー場(1)、アメリカンフットボール・ラグビー場(1)、スポーツトレーニングセンター(1)、武道場(1)、剣道場(1)、弓道場(1)、洋弓場(1)、ライフル射撃場(1)、ボート艇庫(1)、ヨット艇庫(1)、馬場(1)、山小屋(5)					
(8) 経費の見積り及び維持方法の概要	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度	完成年度	国費による
		教員1人当り研究費等	千円	千円	図書購入費	千円	千円	
	共 同 研 究 費 等	千円	千円	設備購入費	千円	千円	千円	
	学生1人当り 納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	千円
		千円	千円	千円	千円	千円	千円	
学生納付金以外の維持方法の概要								

- (注) ・ 設置時の計画を、申請書の様式第2号(その1の1)に準じて作成してください。(複数のキャンパスに分かれている場合、複数の様式に分ける必要はありません。なお、「(1)校地等」及び「(2)校舎」は大学全体の数字を、その他の項目はAC対象学部等の数値を記入してください。)
- ・ 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨(所要時間・距離等)を「備考」に記入してください。
 - ・ 「(5)図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には平成30年5月1日現在の数値を記入してください。
 - ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「(30)」を「備考」に赤字で記入してください。
なお、昨年度の報告において赤字で見え消しした部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
 - ・ 校舎等建物の計画の変更(校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延)がある場合には、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。
 - ・ 国立大学については「(8)経費の見積り及び維持方法の概要」は記載不要です。

4 AC対象学部等を含む大学等の状況

大学 の 名 称	国立大学法人 北海道大学							備 考
既設学部等の名称	修業 年限	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	学位又は称号	平均入学 定員 超過率	開設 年度	所 在 地
文学部						1.04	S25	札幌市北区北10条西7丁目
人文科学科	4	185		740	学士(文学)	1.04	H7	
教育学部						1.07	S24	札幌市北区北11条西7丁目
教育学科	4	50	③10	220	学士(教育学)	1.07	S24	
法学部						1.05	S28	札幌市北区北9条西7丁目
法学課程	4	200	②10/③10	850	学士(法学)	1.05	S49	
経済学部						1.06	S28	札幌市北区北9条西7丁目
経済学科	4	100		400	学士(経済学)	1.07	S28	
経営学科	4	90		360	学士(経営学)	1.06	S41	
理学部						1.03	S24	札幌市北区北10条西8丁目
数学科	4	50		200	学士(理学)	1.04	H7	
物理学科	4	35		140	学士(理学)	1.02	H6	
化学科	4	75		300	学士(理学)	1.03	H7	
生物科学科	4	80		320	学士(理学)	1.04	H5	
地球惑星科学科	4	60		240	学士(理学)	1.04	H6	
医学部						—	S24	
医学科	6	107	②5	667	学士(医学)	1.00	S24	札幌市北区北15条西7丁目
保健学科	4	180		720	学士(看護学/保健学)	1.03	H16	札幌市北区北12条西5丁目
歯学部						0.99	S42	札幌市北区北13条西7丁目
歯学科	6	53		318	学士(歯学)	0.99	S42	
薬学部						—	S40	札幌市北区北12条西6丁目
薬科学科	4	50		200	学士(薬科学)	1.03	H18	
薬学科	6	30		180	学士(薬学)	1.03	H18	
工学部			③10			1.04	S24	札幌市北区北13条西8丁目
応用理工系学科	4	160		640	学士(工学)	1.05	H17	
情報工学科	4	180		720	学士(工学)	1.04	H17	
機械知能工学科	4	120		480	学士(工学)	1.06	H17	
環境社会工学科	4	210		840	学士(工学)	1.03	H17	
農学部						1.04	S24	札幌市北区北9条西9丁目
生物資源科学科	4	36		144	学士(農学)	1.04	H4	
応用生命科学科	4	30		120	学士(農学)	1.03	H4	
生物機能化学科	4	35		140	学士(農学)	1.04	H4	
森林科学科	4	36		144	学士(農学)	1.04	H4	
畜産科学科	4	23		92	学士(農学)	1.04	H4	
生物環境工学科	4	30		120	学士(農学)	1.03	S24	
農業経済学科	4	25		100	学士(農学)	1.04	S24	
獣医学部						1.03	S27	札幌市北区北18条西9丁目
共同獣医学課程	6	40		240	学士(獣医学)	1.03	H24	

編入学定員は4学科共通であるため、収容定員には含めていない

水産学部						1.01	S24	函館市港町3丁目1番1号	
海洋生物科学科		4	54	216	学士(水産学)	1.01	H18		
海洋資源科学科		4	53	212	学士(水産学)	1.01	H18		
増殖生命科学科		4	54	216	学士(水産学)	1.01	H18		
資源機能化学科		4	54	216	学士(水産学)	1.01	H18		
文学研究科							S28	札幌市北区北10条西7丁目	
思想文化学専攻	M	2	14	28	修士(文学)	0.53	H12		
	D	3	6	18	博士(文学)	0.82	H12		
歴史地域文化学専攻	M	2	28	56	修士(文学/学術)	0.80	H12		
	D	3	11	33	博士(文学/学術)	0.81	H12		
言語文学専攻	M	2	29	58	修士(文学)	0.98	H12		
	D	3	11	33	博士(文学)	1.08	H12		
人間文化科学研究科	M	2	19	38	修士(文学)	1.65	H12		
	D	3	7	21	博士(文学)	1.04	H12		
法学研究科							S28	札幌市北区北9条西7丁目	
法学政治学専攻	M	2	20	40	修士(法学)	0.97	H12		
	D	3	15	45	博士(法学)	0.35	H12		
法律実務専攻	P	3	50	150	法務博士(専門職)	0.71	H16		
医学研究科							S30	札幌市北区北15条西7丁目	平成29年より学生募集停止
医科学専攻	M	2	—	—	修士(医科学)	—	H14		
医学専攻	D	4	—	—	博士(医学)	—	H19		
情報科学研究科							H16	札幌市北区北14条西9丁目	
情報理工学専攻	M	2	48	96	修士(工学/情報科学)	1.15	H26		
	D	3	12	36	博士(工学/情報科学)	0.63	H26		
情報IT/外IT専攻	M	2	39	78	修士(工学/情報科学)	1.21	H16		
	D	3	8	24	博士(工学/情報科学)	0.95	H16		
生命人間情報科学専攻	M	2	33	66	修士(工学/情報科学)	0.96	H16		
	D	3	6	18	博士(工学/情報科学)	0.61	H16		
データネットワーク専攻	M	2	30	60	修士(工学/情報科学)	1.21	H16		
	D	3	8	24	博士(工学/情報科学)	1.20	H16		
システム情報科学専攻	M	2	27	54	修士(工学/情報科学)	1.23	H16		
	D	3	8	24	博士(工学/情報科学)	1.37	H16		
水産科学院							H17	函館市港町3丁目1番1号	
海洋生物資源科学専攻	M	2	43	86	修士(水産科学)	1.11	H17		
	D	3	17	51	博士(水産科学)	0.31	H17		
海洋応用生命科学専攻	M	2	47	94	修士(水産科学)	1.29	H17		
	D	3	18	54	博士(水産科学)	0.58	H17		
環境科学院							H17	札幌市北区北10条西5丁目	
環境起学専攻	M	2	44	88	修士(環境科学)	0.74	H17		
	D	3	15	45	博士(環境科学)	0.50	H17		
地球圏科学専攻	M	2	35	70	修士(環境科学)	1.00	H17		
	D	3	14	42	博士(環境科学)	0.40	H17		
生物圏科学専攻	M	2	52	104	修士(環境科学)	1.00	H17		
	D	3	23	69	博士(環境科学)	0.59	H17		

環境物質科学専攻	M	2	28	56	修士(環境科学)	1.05	H17	
	D	3	11	33	博士(環境科学)	0.57	H17	
理学院								H18 札幌市北区北10条西8丁目
数学専攻	M	2	46	92	修士(理学)	0.74	H18	
	D	3	17	51	博士(理学)	0.54	H18	
物性物理学専攻	M	2	24	48	修士(理学)	0.87	H18	
	D	3	10	30	博士(理学)	0.66	H18	
宇宙理学専攻	M	2	20	40	修士(理学)	0.87	H18	
	D	3	9	27	博士(理学)	1.03	H18	
自然史科学専攻	M	2	39	78	修士(理学)	1.29	H18	
	D	3	20	60	博士(理学)	0.80	H18	
農学院								H18 札幌市北区北9条西9丁目
共生基盤学専攻	M	2	40	80	修士(農学)	0.97	H18	
	D	3	8	24	博士(農学)	1.24	H18	
生物資源科学専攻	M	2	42	84	修士(農学)	1.18	H18	
	D	3	14	42	博士(農学)	0.59	H18	
応用生物科学専攻	M	2	18	36	修士(農学)	1.85	H18	
	D	3	6	18	博士(農学)	0.94	H18	
環境資源学専攻	M	2	42	84	修士(農学)	1.29	H18	
	D	3	14	42	博士(農学)	0.56	H18	
生命科学院								H18 札幌市北区北10条西8丁目
生命科学専攻	M	2	116	232	修士(生命科学/農科学)	0.99	H18	
	D	3	38	114	博士(生命科学/農科学)	0.82	H18	
臨床薬学専攻	D	4	6	24	博士(臨床薬学)	1.37	H24	
ソフトウェア専攻	M	2	16	32	修士(ソフトウェア科学)	1.50	H30	
	D	3	6	18	博士(ソフトウェア科学)	0.83	H30	
教育学院								H19 札幌市北区北11条西7丁目
教育学専攻	M	2	45	90	修士(教育学)	0.99	H19	
	D	3	21	63	博士(教育学)	0.69	H19	
国際広報・IA・観光学院								H19 札幌市北区北17条西8丁目
国際広報・IA専攻	M	2	27	54	修士(国際広報/IA)	1.12	H19	
	D	3	14	42	博士(国際広報/IA)	0.47	H19	
観光創造専攻	M	2	15	30	修士(観光学)	1.09	H19	
	D	3	3	9	博士(観光学)	0.99	H19	
保健科学院								H20 札幌市北区北12条西5丁目
保健科学専攻	M	2	40	80	修士(保健科学/看護学)	1.14	H20	
	D	3	10	30	博士(保健科学/看護学)	0.93	H22	
工学院								H22 札幌市北区北13条西8丁目
応用物理学専攻	M	2	33	66	修士(工学)	1.11	H22	
	D	3	9	27	博士(工学)	0.77	H22	
材料科学専攻	M	2	39	78	修士(工学)	1.11	H22	
	D	3	7	21	博士(工学)	0.80	H22	
機械宇宙工学専攻	M	2	27	54	修士(工学)	1.21	H22	
	D	3	5	15	博士(工学)	0.53	H22	

人間機械システム工学専攻	M	2	26	52	修士(工学)	1.20	H22		
	D	3	5	15	博士(工学)	0.46	H22		
IT・IT-環境システム専攻	M	2	26	52	修士(工学)	1.19	H22		
	D	3	5	15	博士(工学)	1.00	H22		
量子理工学専攻	M	2	20	40	修士(工学)	1.35	H22		
	D	3	5	15	博士(工学)	0.60	H22		
環境フィールド工学専攻	M	2	24	48	修士(工学)	1.22	H22		
	D	3	6	18	博士(工学)	0.88	H22		
北方圏環境政策工学専攻	M	2	26	52	修士(工学)	1.09	H22		
	D	3	7	21	博士(工学)	0.80	H22		
建設都市空間工学専攻	M	2	22	44	修士(工学)	1.13	H22		
	D	3	5	15	博士(工学)	1.00	H22		
空間性能システム専攻	M	2	27	54	修士(工学)	0.81	H22		
	D	3	5	15	博士(工学)	0.53	H22		
環境創生工学専攻	M	2	28	56	修士(工学)	1.21	H22		
	D	3	5	15	博士(工学)	0.53	H22		
環境循環システム専攻	M	2	18	36	修士(工学)	1.27	H22		
	D	3	5	15	博士(工学)	2.00	H22		
共同資源工学専攻	M	2	10	20	修士(工学)	1.35	H29		
総合化学院							H22	札幌市北区北13条西8丁目	
総合化学専攻	M	2	129	258	修士(総合化学)	1.18	H22		
	D	3	38	114	博士(理学(工学総合化学))	1.10	H22		
経済学院							S28	札幌市北区北9条西7丁目	平成29年4月名称変更
現代経済経営専攻	M	2	35	70	修士(経済学(経営学))	1.31	H12		
	D	3	8	24	博士(経済学(経営学))	0.86	H12		
会計情報専攻	P	2	20	40	会計修士(専門職)	1.05	H17		
医学院							H29	札幌市北区北15条西7丁目	
医科学専攻	M	2	20	40	修士(医科学(公衆衛生学))	1.55	H29		
医学専攻	D	4	90	360	博士(医学)	1.02	H29		
歯学院							S49	札幌市北区北13条西7丁目	平成29年4月名称変更
口腔医学専攻	D	4	40	160	博士(歯学)	0.82	H12		
獣医学院							S28	札幌市北区北18条西9丁目	平成29年4月名称変更
獣医学専攻	D	4	16	64	博士(獣医学)	0.97	H7		
医理工学院							H29	札幌市北区北15条西7丁目	
医理工学専攻	M	2	12	24	修士(医理工学)	1.12	H29		
	D	3	5	15	博士(医理工学)	1.30	H29		
国際感染症学院							H29	札幌市北区北18条西9丁目	
感染症学専攻	D	4	12	48	博士(感染症学(獣医学))	1.24	H29		
国際食資源学院							H29	札幌市北区北9条西9丁目	
国際食資源学専攻	M	2	15	30	修士(食資源学)	1.09	H29		
公共政策学教育部							H17	札幌市北区北9条西7丁目	
公共政策学専攻	P	2	30	60	公共政策学修士(専門職)	1.19	H17		

- (注) ・本調査の対象となっている大学等の設置者（学校法人等）が設置している全ての大学（学部、学科）、大学院（専攻）及び短期大学（学科）（AC対象学部等含む）について、それぞれの学校種ごとに、平成30年5月1日現在の上記項目の情報を記入してください。
- ・学部の学科または研究科の専攻等、「入学定員を定めている組織」ごとに記入してください。
※「入学定員を定めている組織ごと」には、課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている場合を含めます。履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。
※なお、課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は、法令上規定されている組織上の最小単位（大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」）でも記載してください。
 - ・専攻科に係るものについては、記入する必要はありません。
 - ・AC対象学部等については、必ず記入するとともに、下線を引いてください。
 - ・「平均入学定員超過率」には、標準修業年限に相当する期間における入学定員に対する入学者の割合の平均の小数点以下第2位まで（小数点以下第3位を切り捨て）を記入してください。
 - ・学生募集を停止している学部等がある場合、入学定員・収容定員・平均入学定員超過率は「－」とし、「備考」に「平成〇〇年より学生募集停止」と記入してください。
 - ・構成大学毎に記入してください。

5 教員組織の状況

<大学院 生命科学院 ソフトマター専攻(修士課程)>

(1) ① 担当教員表

【認可時又は届出時】

【平成30年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名
		<就任(予定)年月>			<就任(予定)年月>
		担当授業科目名			担当授業科目名
専	教授	グン 剣萍 <平成30年4月>	専	教授	グン 剣萍 <平成30年4月>
		ソフトウェア科学研究 ソフトウェア科学論文講 読1(リーディング) ソフトウェア科学論文講 読2(ライティング) ソフトウェア科学実習 ソフトウェア科学概論 ソフトウェア物理学特論 (高分子物理) 海外留学			ソフトウェア科学研究 ソフトウェア科学論文講 読1(リーディング) ソフトウェア科学論文講 読2(ライティング) ソフトウェア科学実習 ソフトウェア科学概論 ソフトウェア物理学特論 (高分子物理) 生命融合科学概論 海外留学
専	教授	出村 誠 <平成30年4月>	専	教授	出村 誠 <平成30年4月>
		ソフトウェア科学研究 ソフトウェア科学論文講 読1(リーディング) ソフトウェア科学論文講 読2(ライティング) ソフトウェア科学実習 ソフトウェア科学概論 ソフトウェア解析学特論 (ソフトウェア構造解 析) ソフトウェア解析学特論 (分光学) 海外留学			ソフトウェア科学研究 ソフトウェア科学論文講 読1(リーディング) ソフトウェア科学論文講 読2(ライティング) ソフトウェア科学実習 ソフトウェア科学概論 ソフトウェア解析学特論 (ソフトウェア構造解 析) ソフトウェア解析学特論 (分光学) 生命融合科学概論 海外留学
専	教授	芳賀 永 <平成30年4月>	専	教授	芳賀 永 <平成30年4月>
		ソフトウェア科学研究 ソフトウェア科学論文講 読1(リーディング) ソフトウェア科学論文講 読2(ライティング) ソフトウェア科学実習 ソフトウェア科学概論 ソフトウェア物理学特論 (連続体力学) ソフトウェア設計学特論 (インフォマティクス) 海外留学			ソフトウェア科学研究 ソフトウェア科学論文講 読1(リーディング) ソフトウェア科学論文講 読2(ライティング) ソフトウェア科学実習 ソフトウェア科学概論 ソフトウェア設計学特論 (インフォマティクス) ソフトウェア-理工学特論 (メカノバイオロジー) 生命融合科学概論 海外留学
専	教授	中垣 俊之 <平成30年4月>	専	教授	中垣 俊之 <平成30年4月>
		ソフトウェア科学研究 ソフトウェア科学論文講 読1(リーディング) ソフトウェア科学論文講 読2(ライティング) ソフトウェア科学実習 ソフトウェア科学概論 ソフトウェア物理学特論 (非線形現象) 海外留学			ソフトウェア科学研究 ソフトウェア科学論文講 読1(リーディング) ソフトウェア科学論文講 読2(ライティング) ソフトウェア科学実習 ソフトウェア科学概論 ソフトウェア物理学特論 (非線形現象) 生命融合科学概論 海外留学
専	教授	居城 邦治 <平成30年4月>	専	教授	居城 邦治 <平成30年4月>
		ソフトウェア科学研究 ソフトウェア科学論文講 読1(リーディング) ソフトウェア科学論文講 読2(ライティング) ソフトウェア科学実習 ソフトウェア科学概論 ソフトウェア分子科学特 論(高分子化学) ソフトウェア分子科学特 論(超分子化学) ソフトウェア設計学特論 (ソフトウェア工学) ソフトウェア工学特論 (ソフトウェア基礎医学 入門) 海外留学			ソフトウェア科学研究 ソフトウェア科学論文講 読1(リーディング) ソフトウェア科学論文講 読2(ライティング) ソフトウェア科学実習 ソフトウェア科学概論 ソフトウェア分子科学特 論(高分子化学) ソフトウェア分子科学特 論(超分子化学) 生命融合科学概論 海外留学
専	准教授	黒川 孝幸 <平成30年4月>	専	教授	黒川 孝幸 <平成30年4月>
		ソフトウェア科学研究 ソフトウェア科学論文講 読1(リーディング) ソフトウェア科学論文講 読2(ライティング) ソフトウェア科学実習 ソフトウェア科学概論 ソフトウェア設計学特論 (ソフトウェア工学) 海外留学			ソフトウェア科学研究 ソフトウェア科学論文講 読1(リーディング) ソフトウェア科学論文講 読2(ライティング) ソフトウェア科学実習 ソフトウェア設計学特論 (生物規範工学) 海外留学

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 <就任(予定)年月>	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 <就任(予定)年月>
		担当授業科目名			担当授業科目名
専	准教授	相沢 智康 <平成30年4月>	専	准教授	相沢 智康 <平成30年4月>
		ソフトウェア科学研究 ソフトウェア科学論文講 読Ⅰ(リーディング) ソフトウェア科学論文講 読Ⅱ(ライティング) ソフトウェア科学実習 ソフトウェア科学概論 ソフトウェア解析学特論 (分光学) 海外留学			ソフトウェア科学研究 ソフトウェア科学論文講 読Ⅰ(リーディング) ソフトウェア科学論文講 読Ⅱ(ライティング) ソフトウェア科学実習 ソフトウェア科学概論 ソフトウェア解析学特論 (分光学) ソフトウェア科学特別講 義(生命科学NMR分光学特 論) ソフトウェア科学特別講 義(生命科学NMR特別実 習) 生命融合科学概論 海外留学
専	准教授	佐藤 勝彦 <平成30年4月>	専	准教授	佐藤 勝彦 <平成30年4月>
		ソフトウェア科学研究 ソフトウェア科学論文講 読Ⅰ(リーディング) ソフトウェア科学論文講 読Ⅱ(ライティング) ソフトウェア科学実習 ソフトウェア科学概論 ソフトウェア物理学特論 (連続体力学) 海外留学			ソフトウェア科学研究 ソフトウェア科学論文講 読Ⅰ(リーディング) ソフトウェア科学論文講 読Ⅱ(ライティング) ソフトウェア科学実習 ソフトウェア物理学特論 (連続体力学) 海外留学
専	准教授	新倉 謙一 <平成30年4月>			
		ソフトウェア科学研究 ソフトウェア科学論文講 読Ⅰ(リーディング) ソフトウェア科学論文講 読Ⅱ(ライティング) ソフトウェア科学実習 ソフトウェア科学概論 海外留学			
専	講師	津田 真寿美 <平成30年4月>	専	准教授	津田 真寿美 <平成30年4月>
		ソフトウェア科学研究 ソフトウェア科学論文講 読Ⅰ(リーディング) ソフトウェア科学論文講 読Ⅱ(ライティング) ソフトウェア科学実習 ソフトウェア科学概論 ソフトウェア工学特論 (メカノバイオロジー)			ソフトウェア科学研究 ソフトウェア科学論文講 読Ⅰ(リーディング) ソフトウェア科学論文講 読Ⅱ(ライティング) ソフトウェア科学実習 ソフトウェア科学概論 ソフトウェア工学特論 (ソフトウェア基礎医学 入門) 生命融合科学概論 海外留学
専	講師	小野寺智洋 <平成30年4月>	専	講師	小野寺智洋 <平成30年4月>
		ソフトウェア科学研究 ソフトウェア科学論文講 読Ⅰ(リーディング) ソフトウェア科学論文講 読Ⅱ(ライティング) ソフトウェア科学実習 ソフトウェア科学概論 ソフトウェア工学特論 (再生・臨床医学入門)			ソフトウェア科学研究 ソフトウェア科学論文講 読Ⅰ(リーディング) ソフトウェア科学論文講 読Ⅱ(ライティング) ソフトウェア科学実習 ソフトウェア工学特論 (再生・臨床医学入門)
専	講師	菊川 峰志 <平成30年4月>	専	講師	菊川 峰志 <平成30年4月>
		ソフトウェア科学研究 ソフトウェア科学論文講 読Ⅰ(リーディング) ソフトウェア科学論文講 読Ⅱ(ライティング) ソフトウェア科学実習 ソフトウェア科学概論 ソフトウェア解析学特論 (分光学)			ソフトウェア科学研究 ソフトウェア科学論文講 読Ⅰ(リーディング) ソフトウェア科学論文講 読Ⅱ(ライティング) ソフトウェア科学実習
専	助教	三友 秀之 <平成30年4月>	専	准教授	三友 秀之 <平成30年4月>
		ソフトウェア科学研究 ソフトウェア科学論文講 読Ⅰ(リーディング) ソフトウェア科学論文講 読Ⅱ(ライティング) ソフトウェア科学実習 ソフトウェア分子科学特 論(高分子化学)			ソフトウェア科学研究 ソフトウェア科学論文講 読Ⅰ(リーディング) ソフトウェア科学論文講 読Ⅱ(ライティング) ソフトウェア科学実習 ソフトウェア科学概論 ソフトウェア分子科学特 論(高分子化学) 海外留学

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 <就任(予定)年月>	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 <就任(予定)年月>
		担当授業科目名			担当授業科目名
専	助教	中島 祐 <平成30年4月>	専	助教	中島 祐 <平成30年4月>
		ソフトウェア科学研究 ソフトウェア科学論文講 読Ⅰ(リーディング) ソフトウェア科学論文講 読Ⅱ(ライティング) ソフトウェア科学実習			ソフトウェア科学研究 ソフトウェア科学論文講 読Ⅰ(リーディング) ソフトウェア科学論文講 読Ⅱ(ライティング) ソフトウェア科学実習 ソフトウェア物理学特論 (高分子物理)
専	助教	キング ダニエル ルドルフ <平成30年4月>	専	助教	キング ダニエル ルドルフ <平成30年4月>
		ソフトウェア科学研究 ソフトウェア科学論文講 読Ⅰ(リーディング) ソフトウェア科学論文講 読Ⅱ(ライティング) ソフトウェア科学実習 ソフトウェア設計学特論 (ソフトウェア工学)			ソフトウェア科学研究 ソフトウェア科学論文講 読Ⅰ(リーディング) ソフトウェア科学論文講 読Ⅱ(ライティング) ソフトウェア科学実習 ソフトウェア設計学特論 (生物情報工学)
専	助教	野々山 貴行 <平成30年4月>	専	助教	野々山 貴行 <平成30年4月>
		ソフトウェア科学研究 ソフトウェア科学論文講 読Ⅰ(リーディング) ソフトウェア科学論文講 読Ⅱ(ライティング) ソフトウェア科学実習			ソフトウェア科学研究 ソフトウェア科学論文講 読Ⅰ(リーディング) ソフトウェア科学論文講 読Ⅱ(ライティング) ソフトウェア科学実習
専	助教	水谷 武臣 <平成30年4月>			
		ソフトウェア科学研究 ソフトウェア科学論文講 読Ⅰ(リーディング) ソフトウェア科学論文講 読Ⅱ(ライティング) ソフトウェア科学実習 ソフトウェア医工学特論 (ソフトウェア基礎医学 入門)			
専	助教	古澤 和也 <平成30年4月>			
		ソフトウェア科学研究 ソフトウェア科学論文講 読Ⅰ(リーディング) ソフトウェア科学論文講 読Ⅱ(ライティング) ソフトウェア科学実習 ソフトウェア物理学特論 (連続体力学) ソフトウェア分子科学特 論(超分子化学)			
専	助教	新規採用	専	助教	塚本 卓 <平成30年4月>
		ソフトウェア科学研究 ソフトウェア科学論文講 読Ⅰ(リーディング) ソフトウェア科学論文講 読Ⅱ(ライティング) ソフトウェア科学実習 ソフトウェア解析学特論 (分光学)			ソフトウェア科学研究 ソフトウェア科学論文講 読Ⅰ(リーディング) ソフトウェア科学論文講 読Ⅱ(ライティング) ソフトウェア科学実習
			専	助教	石原 誠一郎 <平成30年4月>
					ソフトウェア科学研究 ソフトウェア科学論文講 読Ⅰ(リーディング) ソフトウェア科学論文講 読Ⅱ(ライティング) ソフトウェア科学実習 ソフトウェア医工学特論 (メカノバイオロジー)
兼任	教授	綾部 時芳 <平成30年4月>	兼任	教授	綾部 時芳 <平成30年4月>
		生命融合科学概論			ソフトウェア科学概論 生命融合科学概論 特別講義 特別実習

専任・兼担・兼任の別	職名	氏名 <就任(予定)年月>	専任・兼担・兼任の別	職名	氏名 <就任(予定)年月>
		担当授業科目名			担当授業科目名
兼担	教授	金城 政孝 <平成30年4月>	兼担	教授	金城 政孝 <平成30年4月>
		ソフトウェア解析学特論 (ソフトウェア構造解析)			ソフトウェア科学概論 ソフトウェア解析学特論 (ソフトウェア構造解析) ソフトウェア設計学特論 (インフォマティクス) 生命融合科学概論
兼担	教授	西村 紳一郎 <平成30年4月>	兼担	教授	西村 紳一郎 <平成30年4月>
		生命融合科学概論			ソフトウェア科学概論 生命融合科学概論
兼担	教授	幸田 敏明 <平成30年4月>	兼担	教授	幸田 敏明 <平成30年4月>
		生命融合科学概論			ソフトウェア科学概論 生命融合科学概論
兼担	教授	玉置 伸之 <平成30年4月>	兼担	教授	玉置 伸之 <平成30年4月>
		生命融合科学概論			ソフトウェア科学概論 生命融合科学概論
兼担	教授	藤田 恭之 <平成30年4月>	兼担	教授	藤田 恭之 <平成30年4月>
		生命融合科学概論			ソフトウェア工学特論 (ソフトウェア基礎医学入門)
兼担	教授	村上 正晃 <平成30年4月>	兼担	教授	村上 正晃 <平成30年4月>
		生命融合科学概論			ソフトウェア工学特論 (ソフトウェア基礎医学入門)
兼担	教授	網塚 憲生 <平成30年4月>	兼担	教授	網塚 憲生 <平成30年4月>
		生命融合科学概論			ソフトウェア工学特論 (ソフトウェア基礎医学入門)
兼担	教授	近藤 亨 <平成30年4月>	兼担	教授	近藤 亨 <平成30年4月>
		ソフトウェア物理学特論 (高分子物理)			ソフトウェア工学特論 (ソフトウェア基礎医学入門)
兼担	教授	大場 雄介 <平成30年4月>	兼担	教授	大場 雄介 <平成30年4月>
		ソフトウェア物理学特論 (非線形現象)			ソフトウェア工学特論 (ソフトウェア基礎医学入門)
兼担	教授	田中 伸哉 <平成30年4月>	兼担	教授	田中 伸哉 <平成30年4月>
		ソフトウェア工学特論 (再生・臨床医学入門)			ソフトウェア工学特論 (再生・臨床医学入門)
兼担	教授	高畑 雅彦 <平成30年4月>	兼担	教授	高畑 雅彦 <平成30年4月>
		ソフトウェア解析学特論 (分光学)			ソフトウェア工学特論 (再生・臨床医学入門)

専任・ 兼任・ 兼任の 別	職名	氏名 <就任(予定)年月>
		担当授業科目名
兼任	教授	石田 晋 <平成30年4月>
		ソフトウェア分子科学特論 (高分子化学)
兼任	教授	神谷 温之 <平成30年4月>
		ソフトウェア分子科学特論 (超分子化学)
兼任	教授	武富 紹信 <平成30年4月>
		生命融合科学概論
兼任	教授	寺内 伊久郎 <平成30年4月>
		生命融合科学概論
兼任	准教授	樋田 京子 <平成30年4月>
		生命融合科学概論
兼任	講師	藤田 靖幸 <平成30年4月>
		ソフトウェア工学特論 (メカノバイオロジー)
兼任	助教	上原 亮太 <平成30年4月>
		生命融合科学概論
兼任	学術 主任 専門 職	山口 茂彦 <平成30年4月>
		生命融合科学概論
兼任	教授	櫻木 直也 <平成30年4月>
		特別講義
兼任	教授	山本 条太郎 <平成30年4月>
		特別演習
兼任	准教授	尾瀬 農之 <平成30年4月>
		特別実習
兼任	准教授	中村 公則 <平成30年4月>
		ソフトウェア設計学特論 (インフォマティクス)

専任・ 兼任・ 兼任の 別	職名	氏名 <就任(予定)年月>
		担当授業科目名
兼任	教授	石田 晋 <平成30年4月>
		ソフトウェア工学特論 (再生・臨床医学入門)
兼任	教授	神谷 温之 <平成30年4月>
		ソフトウェア工学特論 (再生・臨床医学入門)
兼任	教授	武富 紹信 <平成30年4月>
		ソフトウェア工学特論 (再生・臨床医学入門)
兼任	教授	寺内 伊久郎 <平成30年4月>
		ソフトウェア科学概論 生命融合科学概論
兼任	准教授	樋田 京子 <平成30年4月>
		ソフトウェア工学特論 (ソフトウェア基礎医学 入門)
兼任	講師	藤田 靖幸 <平成30年4月>
		ソフトウェア工学特論 (再生・臨床医学入門)
兼任	准教授	上原 亮太 <平成30年4月>
		ソフトウェア科学概論 生命融合科学概論
兼任	学術 主任 専門 職	山口 茂彦 <平成30年4月>
		ソフトウェア科学概論 生命融合科学概論
兼任	教授	櫻木 直也 <平成30年4月>
兼任	教授	山本 条太郎 <平成30年4月>
兼任	准教授	尾瀬 農之 <平成30年4月>
兼任	准教授	中村 公則 <平成30年4月>

専任・兼担・兼任の別	職名	氏名 <就任(予定)年月>	専任・兼担・兼任の別	職名	氏名 <就任(予定)年月>
		担当授業科目名			担当授業科目名
兼任	客員教授	津田 栄 <平成30年4月>	兼任	客員教授	津田 栄 <平成30年4月>
		生命融合科学概論			ソフトウェア科学概論 生命融合科学概論
兼任	客員教授	猿渡 欣幸 <平成30年4月>	兼任	客員教授	猿渡 欣幸 <平成30年4月>
		ソフトウェア科学概論			ソフトウェア設計学特論 (生物規範工学)
兼任	非常勤講師	Hans J. VOGEL <平成30年4月>	兼任	非常勤講師	Hans J. VOGEL <平成30年4月>
		ソフトウェア科学特別講義			ソフトウェア科学特別講義 (生命科学NMR分光学特論)
			兼任	非常勤講師	石田 博昭 <平成30年4月>
			兼任	非常勤講師	ソフトウェア科学特別講義 (生命科学NMR特別実習)
			兼任	非常勤講師	川村 出 <平成30年4月>
			兼任	非常勤講師	ソフトウェア科学特別講義 (生命科学NMR特別実習)
			兼任	非常勤講師	北原 亮 <平成30年4月>
			兼任	非常勤講師	ソフトウェア科学特別講義 (生命科学NMR特別実習)

- (注) ・ 申請書又は届出書の様式第3号(その2の1)に準じて作成してください。
- ・ 設置認可時又は届出時の教員全て(兼任、兼任教員を含む。)を黒字で記入してください。
 - ・ その上で、**認可時又は届出時から変更となっている箇所は赤字としてください。**
 - ・ 年齢は、**それぞれの年度の5月1日時点の満年齢**を記入してください。
 - ・ 専任、兼担、兼任の順に記入してください。
 - ・ 不要な年度(平成28年度開設であれば平成27年度、平成29年度開設であれば平成27年度及び平成28年度、平成30年度開設であれば平成27年度から平成29年度)の表は適宜削除し、詰めてください。

【修士課程】

(1) 一②担当教員表に関する変更内容

【平成30年度】

- ・平成30年 4月 (専) グン剣萍教授が、新たに生命融合科学概論を担当する。
- ・平成30年 4月 (専) 出村誠教授が、新たに生命融合科学概論を担当する。
- ・平成30年 4月 (専) 芳賀永教授が、新たにソフトウェア工学特論(メカノバイオロジー)及び生命融合科学概論を担当する。ソフトウェア物理学概論(連続体力学)を担当外とする。
- ・平成30年 4月 (専) 中垣俊之教授が、新たに生命融合科学概論を担当する。
- ・平成30年 4月 (専) 居城邦治教授が、新たに生命融合科学概論を担当する。ソフトウェア設計学特論(ソフトウェア工学)及びソフトウェア工学特論(ソフトウェア基礎医学入門)を担当外とする。
- ・平成29年 7月 (専) 黒川孝幸教授昇任(准教授→教授)。ソフトウェア科学概論を担当外とする。
- ・平成30年 4月 (専) 相沢智康准教授が、新たにソフトウェア科学特別講義(生命科学NMR分光特論)、ソフトウェア科学特別講義(生命科学NMR特別実習)及び生命融合科学概論を担当する。
- ・平成30年 4月 (専) 佐藤勝彦准教授が担当していたソフトウェア科学概論を担当外とする。
- ・平成29年 3月 (専) 新倉謙一准教授就任辞退により、後任として、(専)三友秀之准教授がソフトウェア科学研究、ソフトウェア科学論文講読Ⅰ(リーディング)、ソフトウェア科学論文講読Ⅱ(ライティング)、ソフトウェア科学実習、ソフトウェア科学概論及び海外留学を担当する。
- ・平成29年 6月 (専) 津田真寿美准教授昇任(講師→准教授)。新たにソフトウェア工学特論(ソフトウェア基礎医学入門)、生命融合科学概論及び海外留学を担当する。ソフトウェア工学特論(メカノバイオロジー)を担当外とする。
- ・平成30年 4月 (専) 小野寺智洋講師が担当していたソフトウェア科学概論を担当外とする。
- ・平成30年 4月 (専) 菊川峰志講師が担当していたソフトウェア科学概論及びソフトウェア解析学特論(分光学)を担当外とする。
- ・平成29年 9月 (専) 三友秀之准教授昇任(助教→教授)。(専)新倉謙一准教授の後任)
- ・平成30年 4月 (専) 中島祐助教が、新たにソフトウェア物理学特論(高分子物理)を担当する。
- ・平成29年 3月 (専) 水谷武臣助教就任辞退により、後任として、(専)石原誠一郎助教がソフトウェア科学研究、ソフトウェア科学論文講読Ⅰ(リーディング)、ソフトウェア科学論文講読Ⅱ(ライティング)、ソフトウェア科学実習を担当する。ソフトウェア工学特論(ソフトウェア基礎医学入門)については、同じ研究分野の専任教員が担当するため、支障はない。
- ・平成30年 3月 (専) 古澤和也助教就任辞退。ソフトウェア科学研究、ソフトウェア科学論文講読Ⅰ(リーディング)、ソフトウェア科学論文講読Ⅱ(ライティング)、ソフトウェア科学実習、ソフトウェア物理学特論(連続体力学)及びソフトウェア分子科学特論(超分子化学)については、いずれの科目も同じ研究分野の専任教員が担当するため、支障はない。
- ・平成29年 4月 新たに(専)塚本卓助教就任。「ソフトウェア解析学特論(分光学)」を担当外とする。
- ・平成29年10月 (専) 石原誠一郎助教就任。(専)水谷武臣助教の後任)
- ・平成30年 4月 (兼任) 綾部時芳教授が、新たにソフトウェア科学概論を担当する。
- ・平成30年 4月 (兼任) 金城政孝教授が、新たにソフトウェア科学概論及び生命融合科学概論を担当する。
- ・平成30年 4月 (兼任) 西村紳一郎教授が、新たにソフトウェア科学概論を担当する。
- ・平成30年 4月 (兼任) 幸田敏明教授が、新たにソフトウェア科学概論を担当する。
- ・平成30年 4月 (兼任) 玉置伸之教授が、新たにソフトウェア科学概論を担当する。
- ・平成30年 4月 (兼任) 藤田恭之教授が、新たにソフトウェア工学特論(ソフトウェア基礎医学入門)を担当する。生命融合科学概論を担当外とする。
- ・平成30年 4月 (兼任) 村上正晃教授が、新たにソフトウェア工学特論(ソフトウェア基礎医学入門)を担当する。生命融合科学概論を担当外とする。
- ・平成30年 4月 (兼任) 網塚憲生教授が、新たにソフトウェア工学特論(ソフトウェア基礎医学入門)を担当する。生命融合科学概論を担当外とする。
- ・平成30年 4月 (兼任) 近藤亨教授が、新たにソフトウェア工学特論(ソフトウェア基礎医学入門)を担当する。ソフトウェア物理学特論(高分子物理)を担当外とする。
- ・平成30年 4月 (兼任) 大場雄介教授が、新たにソフトウェア工学特論(ソフトウェア基礎医学入門)を担当する。ソフトウェア物理学特論(非線形現象)を担当外とする。
- ・平成30年 4月 (兼任) 高畑雅彦教授が、新たにソフトウェア工学特論(再生・臨床医学入門)を担当する。ソフトウェア解析学特論(分光学)を担当外とする。
- ・平成30年 4月 (兼任) 石田晋教授が、新たにソフトウェア工学特論(再生・臨床医学入門)を担当する。ソフトウェア分子科学特論(高分子化学)を担当外とする。
- ・平成30年 4月 (兼任) 神谷温之教授が、新たにソフトウェア工学特論(再生・臨床医学入門)を担当する。ソフトウェア分子科学特論(超分子化学)を担当外とする。
- ・平成30年 4月 (兼任) 武富紹信教授が、新たにソフトウェア工学特論(再生・臨床医学入門)を担当する。生命融合科学概論を担当外とする。
- ・平成30年 4月 (兼任) 寺内伊二郎教授が、新たにソフトウェア科学概論を担当する。
- ・平成30年 4月 (兼任) 樋田京子准教授が、新たにソフトウェア工学特論(ソフトウェア基礎医学入門)を担当する。生命融合科学概論を担当外とする。
- ・平成30年 4月 (兼任) 藤田靖幸講師が、新たにソフトウェア工学特論(再生・臨床医学入門)を担当する。ソフトウェア工学特論(メカノバイオロジー)を担当外とする。
- ・平成29年11月 (兼任) 上原亮太准教授昇任(助教→准教授)。新たにソフトウェア科学概論を担当する。
- ・平成30年 4月 (兼任) 山口茂彦学術主任専門職が、新たにソフトウェア科学概論を担当する。
- ・平成30年 3月 (兼任) 櫻木直也教授就任辞退により、後任として、(兼任)綾部時芳教授が特別講義を担当する。
- ・平成30年 3月 (兼任) 山本奈太郎教授就任辞退により、後任として、(兼任)綾部時芳教授が特別演習を担当する。
- ・平成30年 3月 (兼任) 尾瀬農之准教授就任辞退により、後任として、(兼任)綾部時芳教授が特別実習を担当する。
- ・平成30年 3月 (兼任) 中村公則准教授就任辞退により、後任として、(兼任)金城政孝教授がソフトウェア設計学特論(インフォマティクス)を担当する。
- ・平成30年 4月 (兼任) 津田栄客員教授が、新たにソフトウェア科学概論を担当する。
- ・平成30年 4月 (兼任) 渡邊欣幸客員教授が、新たにソフトウェア設計学特論(生物規範工学)を担当する。ソフトウェア科学概論を担当外とする。
- ・平成30年 4月 新たに(兼任)石田博昭非常勤講師就任。ソフトウェア科学特別講義(生命科学NMR特別実習)を担当する。
- ・平成30年 4月 新たに(兼任)川村出非常勤講師就任。ソフトウェア科学特別講義(生命科学NMR特別実習)を担当する。
- ・平成30年 4月 新たに(兼任)北原亮非常勤講師就任。ソフトウェア科学特別講義(生命科学NMR特別実習)を担当する。

- (注) ・ 変更内容を箇条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ **認可で設置された学部等の専任教員を変更する場合は**、当該専任教員が授業を開始する前に必ず「専任教員採用等設置計画変更書」を提出し、大学設置・学校法人審議会による教員資格審査(AC教員審査)を受けてください。**AC教員審査を受けずに専任教員として授業等を担当することは出来ません。**
 - ・ 「専任教員採用等変更書(AC)」を提出し「可」の教員判定を受けている場合は「〇年〇月教員審査済」と記入してください。なお、設置認可審査時に教員審査となっている場合は、「教員審査省略」と記入してください。
 - ・ 不要な年度(平成28年度開設であれば平成27年度、平成29年度開設であれば平成27年度及び平成28年度、平成30年度開設であれば平成27年度から平成29年度)の表は適宜削除してください。

(2) 専任教員数等

(2) - ① 設置基準上の必要専任教員数

完成年度時における設置基準上の必要研究指導教員数	うち、完成年度時における設置基準上の必要教授数	完成年度時における設置基準上の必要研究指導補助教員数
4	3	3
名	名	名

(注) ・ 大学院に専攻ごとに置くものとする教員の数について定める件（平成十一年九月十四日文部省告示第百七十五号）により算出される教員数を記入してください。

(2) - ② 専任教員数

設置時の計画					現在（報告書提出時）の状況					現在（報告書提出時）の完成年度時の計画				
教授	准教授	講師	助教	計(A)	教授	准教授	講師	助教	計(B)	教授	准教授	講師	助教	計(C)
5	4	3	7	19	6	4	2	5	17	6	4	2	5	17
(6)	(4)	(2)	(5)	(17)						[1]	[0]	[Δ1]	[Δ2]	[Δ2]
研究指導教員数	研究指導補助教員数	講義のみ担当の教員数			研究指導教員数	研究指導補助教員数	講義のみ担当の教員数			研究指導教員数	研究指導補助教員数	講義のみ担当の教員数		
12	7	0			12	5	0			12	5	0		
(12)	(5)	(0)								[0]	[Δ2]	[0]		

(注) ・ 「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、（ ）内に開設時の状況を記入してください。
 ・ 「現在（報告書提出時）の状況」には、報告書提出年度の5月1日の教員数（実人数）を記入してください。
 ・ 「現在（報告書提出時）の完成年度時の計画」には、「現在（報告書提出時）の状況」に記入した数字に、教員審査を受審済みであり、完成年度までに就任する教員数を加えた数を記入するとともに、[]内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：Δ1）

(2) - ③ 年齢構成

年齢構成		
定年規定の定める定年年齢（歳）	報告書提出時（上記(B)）の教員のうち、定年を延長して採用している教員数	完成年度時（上記(C)）の教員のうち、定年を延長して採用する教員数
65	0	0
歳	名	名

(注) ・ 「年齢構成」には、当該学部における教員の定年に関する規定に基づく定年年齢（特例等による定年年齢ではありません）、および、平成30年5月1日現在、定年に関する規定に基づく特例等により定年を超えて専任教員として採用されている教員数および完成年度時に定年を超えて専任教員として採用する教員数を記入してください。
 ・ なお、職位等によって定年年齢が異なる場合には、職位ごとの定年年齢を「定年規定の定める定年年齢」に二段階書きで記入し、「定年を延長している教員数」には合算した数を記入してください。
 ・ 専門職大学院の場合は、「研究指導教員」を「研究者教員」と、「研究指導補助教員」を「実務家教員」と修正して記入してください。

(2) - ④ 設置時の計画に対する教員充足率

$$\frac{\text{現在（報告書提出時）の完成年度時の計画(C)}}{\text{設置時の計画(A)}} = \frac{17}{19} = \boxed{89.47} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2) - ⑤ 現在（報告書提出時）の状況における定年を延長している教員構成率

$$\frac{\text{報告書提出時の教員のうち、定年を延長して採用している教員数}}{\text{現在（報告書提出時）の状況(B)}} = \frac{0}{17} = \boxed{0} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

〈修士課程〉

(3) 専任教員辞任等の理由

(3) - ① 専任教員の就任辞退（未就任）の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	就任辞退（未就任）の理由			
1	准教授	新倉 謙一	必修	ソフトウェア科学研究	①	他機関転出のため就任辞退 (30)			
			必修	ソフトウェア科学論文講義Ⅰ（リーディング）	①				
			必修	ソフトウェア科学論文講義Ⅱ（ライティング）	①				
			必修	ソフトウェア科学実習	①				
			必修	ソフトウェア科学概論	①				
			選択	海外留学	①				
2	助教	水谷 武臣	必修	ソフトウェア科学研究	①	他機関転出のため就任辞退 (30)			
			必修	ソフトウェア科学論文講義Ⅰ（リーディング）	①				
			必修	ソフトウェア科学論文講義Ⅱ（ライティング）	①				
			必修	ソフトウェア科学実習	①				
			選択	ソフトウェア-医学特論（ソフトウェア-基礎医学入門）	①				
3	助教	古澤 和也	必修	ソフトウェア科学研究	①	他機関転出のため就任辞退 (30)			
			必修	ソフトウェア科学論文講義Ⅰ（リーディング）	①				
			必修	ソフトウェア科学論文講義Ⅱ（ライティング）	①				
			必修	ソフトウェア科学実習	①				
			選択	ソフトウェア物理学特論（連続体力学）	①				
			選択	ソフトウェア分子科学特論（超分子化学）	①				
合計（D）				後任補充状況の集計（E）					
就任を辞退した教員数		担当科目数の合計（a）+（b）+（c）		①の合計数（a）	②の合計数（b）	③の合計数（c）			
3	人	必修	13 科目	必修	13 科目	必修	0 科目	必修	0 科目
		選択	4 科目	選択	4 科目	選択	0 科目	選択	0 科目
		自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目
		計	17 科目	計	17 科目	計	0 科目	計	0 科目

- (注) ・ 認可時又は届出時以降、就任を辞退した全ての専任教員の就任辞退の理由を具体的に記入してください。
- ・ 「就任辞退（未就任）」とは、認可又は届出時に就任予定としながら、実際には就任しなかった教員のことです。就任した後に辞任した教員は、以下「(3) - ②専任教員辞任の理由及び後任補充状況」に記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに専任教員が新たに就任を辞退した場合、赤字にて記入するとともに、「就任辞退（未就任）の理由」に就任辞退の理由等および（ ）書きで報告年度を記入してください。
- ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
- ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
- ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) - ② 専任教員辞任の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由			
						該当なし			
合計（F）				後任補充状況の集計（G）					
辞任した教員数		担当科目数の合計（a）+（b）+（c）		①の合計数（a）	②の合計数（b）	③の合計数（c）			
0	人	必修	科目	必修	科目	必修	科目	必修	科目
		選択	科目	選択	科目	選択	科目	選択	科目
		自由	科目	自由	科目	自由	科目	自由	科目
		計	科目	計	科目	計	科目	計	科目

- (注) ・ 一度就任した後に、定年による退職以外の理由で辞任した全ての専任教員について記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等および（ ）書きで報告年度を記入してください。
- ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
- ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
- ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) -③ 上記(3) -① ・ (3) -② の合計

合計 (D) + (F)				後任補充状況の集計 (E) + (G)					
辞任等した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)		①の合計数 (a)		②の合計数 (b)		③の合計数 (c)	
3	人	必修	13 科目	必修	13 科目	必修	0 科目	必修	0 科目
		選択	4 科目	選択	4 科目	選択	0 科目	選択	0 科目
		自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目
		計	17 科目	計	17 科目	計	0 科目	計	0 科目

(3) -④ 設置時の計画に対する教員辞任率

$$\frac{(3) - ③ \text{合計(D)+(F)}}{(2) - ② \text{設置時の計画(A)}} = \frac{3}{19} = \boxed{15.78} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) -⑤ 定年により退職した専任教員に対する後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由			
						該当なし			
合計			後任補充状況の集計						
辞任した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)		①の合計数 (a)		②の合計数 (b)		③の合計数 (c)	
0	人	必修	科目	必修	科目	必修	科目	必修	科目
		選択	科目	選択	科目	選択	科目	選択	科目
		自由	科目	自由	科目	自由	科目	自由	科目
		計	科目	計	科目	計	科目	計	科目

- (注) ・ **定年により退職した全ての専任教員**について記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等および()書きで報告年度を記入してください。
 - ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 専任教員が担当する(している)場合は「①」 ・ 兼任兼担教員が担当する(している)場合は「②」 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」 |
|---|

(4) 専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

設置時に、准教授1名及び助教2名が就任辞退しているが、当該教員の担当予定科目は、同じ研究分野の教授、准教授、講師、助教及び後任補充した助教及び准教授が研究指導を行うため、支障はない。また、募集要項配布時には辞退していたので学生に影響はない。(30)

- (注) ・ 上記(3)の専任教員辞任等による学生の履修等への影響に関する「大学の所見」及び「学生への周知方法」を記入してください。

5 教員組織の状況

<大学院 生命科学院 ソフトマター専攻（博士後期課程）>

(1) ① 担当教員表

【認可時又は届出時】

【平成30年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 <就任(予定)年月> 担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 <就任(予定)年月> 担当授業科目名
専	教授	グン 剣萍 <平成30年4月> ソフトマター科学特別研究 ソフトマター科学論文講読 国際共同研究提案演習 博士海外研究 国際学会口頭発表 海外留学	専	教授	グン 剣萍 <平成30年4月> ソフトマター科学特別研究 ソフトマター科学論文講読 国際共同研究提案演習 博士海外研究 国際学会口頭発表 海外留学
専	教授	出村 誠 <平成30年4月> ソフトマター科学特別研究 ソフトマター科学論文講読 国際共同研究提案演習 博士海外研究 国際学会口頭発表 海外留学	専	教授	出村 誠 <平成30年4月> ソフトマター科学特別研究 ソフトマター科学論文講読 国際共同研究提案演習 博士海外研究 国際学会口頭発表 海外留学
専	教授	芳賀 永 <平成30年4月> ソフトマター科学特別研究 ソフトマター科学論文講読 国際共同研究提案演習 小人数討論型育成プログラム 博士海外研究 国際学会口頭発表 海外留学	専	教授	芳賀 永 <平成30年4月> ソフトマター科学特別研究 ソフトマター科学論文講読 国際共同研究提案演習 小人数討論型育成プログラム 博士海外研究 国際学会口頭発表 海外留学
専	教授	中垣 俊之 <平成30年4月> ソフトマター科学特別研究 ソフトマター科学論文講読 国際共同研究提案演習 博士海外研究 国際学会口頭発表 海外留学	専	教授	中垣 俊之 <平成30年4月> ソフトマター科学特別研究 ソフトマター科学論文講読 国際共同研究提案演習 博士海外研究 国際学会口頭発表 海外留学
専	教授	居城 邦治 <平成30年4月> ソフトマター科学特別研究 ソフトマター科学論文講読 国際共同研究提案演習 博士海外研究 国際学会口頭発表 海外留学	専	教授	居城 邦治 <平成30年4月> ソフトマター科学特別研究 ソフトマター科学論文講読 国際共同研究提案演習 博士海外研究 国際学会口頭発表 海外留学
専	准教授	黒川 孝幸 <平成30年4月> ソフトマター科学特別研究 ソフトマター科学論文講読 博士海外研究 海外留学	専	教授	黒川 孝幸 <平成30年4月> ソフトマター科学特別研究 ソフトマター科学論文講読 国際共同研究提案演習 博士海外研究 国際学会口頭発表 海外留学
			専	教授	中西 尚志 <平成30年4月> ソフトマター科学特別研究 ソフトマター科学論文講読
専	准教授	相沢 智康 <平成30年4月> ソフトマター科学特別研究 ソフトマター科学論文講読 博士海外研究 国際研究集会企画プログラム 海外留学	専	准教授	相沢 智康 <平成30年4月> ソフトマター科学特別研究 ソフトマター科学論文講読 博士海外研究 国際研究集会企画プログラム 海外留学
専	准教授	佐藤 勝彦 <平成30年4月> ソフトマター科学特別研究 ソフトマター科学論文講読 博士海外研究 海外留学	専	准教授	佐藤 勝彦 <平成30年4月> ソフトマター科学特別研究 ソフトマター科学論文講読 博士海外研究 海外留学

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 <就任(予定)年月>	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 <就任(予定)年月>
		担当授業科目名			担当授業科目名
専	准教授	新倉 謙一 <平成30年4月> ソフトウェア科学特別研究 ソフトウェア科学論文講義 博士海外研究 海外留学			
専	講師	津田 真寿美 <平成30年4月> ソフトウェア科学特別研究 ソフトウェア科学論文講義 博士海外研究	専	准教授	津田 真寿美 <平成30年4月> ソフトウェア科学特別研究 ソフトウェア科学論文講義 博士海外研究 海外留学
			専	准教授	上木 岳士 <平成30年4月> ソフトウェア科学特別研究 ソフトウェア科学論文講義
専	講師	小野寺智洋 <平成30年4月> ソフトウェア科学特別研究 ソフトウェア科学論文講義 博士海外研究	専	講師	小野寺智洋 <平成30年4月> ソフトウェア科学特別研究 ソフトウェア科学論文講義 博士海外研究
専	講師	菊川 峰志 <平成30年4月> ソフトウェア科学特別研究 ソフトウェア科学論文講義 博士海外研究	専	講師	菊川 峰志 <平成30年4月> ソフトウェア科学特別研究 ソフトウェア科学論文講義 博士海外研究
専	助教	三友 秀之 <平成30年4月> ソフトウェア科学特別研究 ソフトウェア科学論文講義 博士海外研究	専	准教授	三友 秀之 <平成30年4月> ソフトウェア科学特別研究 ソフトウェア科学論文講義 博士海外研究 海外留学
専	助教	中島 祐 <平成30年4月> ソフトウェア科学特別研究 ソフトウェア科学論文講義 博士海外研究	専	助教	中島 祐 <平成30年4月> ソフトウェア科学特別研究 ソフトウェア科学論文講義 博士海外研究
専	助教	キング ダニエル ルドルフ <平成30年4月> ソフトウェア科学特別研究 ソフトウェア科学論文講義 博士海外研究	専	助教	キング ダニエル ルドルフ <平成30年4月> ソフトウェア科学特別研究 ソフトウェア科学論文講義 博士海外研究
専	助教	野々山 貴行 <平成30年4月> ソフトウェア科学特別研究 ソフトウェア科学論文講義 博士海外研究	専	助教	野々山 貴行 <平成30年4月> ソフトウェア科学特別研究 ソフトウェア科学論文講義 博士海外研究
専	助教	水谷 武臣 <平成30年4月> ソフトウェア科学特別研究 ソフトウェア科学論文講義 博士海外研究			
専	助教	古澤 和也 <平成30年4月> ソフトウェア科学特別研究 ソフトウェア科学論文講義 博士海外研究			

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 <就任(予定)年月>	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 <就任(予定)年月>
		担当授業科目名			担当授業科目名
専任	助教	新規採用	専任	助教	澤本 卓 <平成30年4月> ソフトウェア科学特別研究 ソフトウェア科学論文講義 博士海外研究
		ソフトウェア科学特別研究 ソフトウェア科学論文講義 博士海外研究			ソフトウェア科学特別研究 ソフトウェア科学論文講義 博士海外研究
					石原 誠一郎 <平成30年4月> ソフトウェア科学特別研究 ソフトウェア科学論文講義 博士海外研究
兼任	教授	綾部 時芳 <平成30年4月> 国際学会口頭発表	兼任	教授	綾部 時芳 <平成30年4月> 国際学会口頭発表 特別講義 特別実習 特別実習
		樋口 直樹 <平成30年4月> 理系・科学技術系大学院生のステップアップキャリア形成			樋口 直樹 <平成30年4月> 理系・科学技術系大学院生のステップアップキャリア形成 博士研究者のキャリア開発研究
					門出 健次 <平成30年4月> 博士海外研究
					姚 関 <平成30年4月> 博士海外研究
兼任	教授	櫻木 直也 <平成30年4月> 特別講義			
兼任	教授	山本 条太郎 <平成30年4月> 特別演習			
兼任	准教授	尾瀬 農之 <平成30年4月> 特別実習			
兼任	准教授	中村 公則 <平成30年4月> 博士研究者のキャリア開発研究			
兼任	助教	上原 亮太 <平成30年4月> 小人数討論型育成プログラム	兼任	准教授	上原 亮太 <平成30年4月> 小人数討論型育成プログラム

- (注) ・ 申請書又は届出書の様式第3号(その2の1)に準じて作成してください。
・ 設置認可時又は届出時の教員全て(兼任、兼任教員を含む。)を黒字で記入してください。
その上で、**置可時又は届出時から変更となっている箇所は赤字としてください。**
・ 年齢は、**それぞれの年度の5月1日時点の満年齢**を記入してください。
・ 専任、兼任、兼任の順に記入してください。
・ 不要な年度(平成28年度開設であれば平成27年度、平成29年度開設であれば平成27年度及び平成28年度、平成30年度開設であれば平成27年度から平成29年度)の表は適宜削除し、詰めてください。

〈博士後期課程〉

(1) 一②担当教員表に関する変更内容

【平成30年度】

- ・平成29年 7月 (専) 黒川孝幸教授昇任(准教授→教授)。新たに国際共同研究提案演習及び国際学会口頭発表を担当する。
- ・平成30年 4月 新たに(専) 中西尚志教授就任。
- ・平成29年 3月 (専) 新倉謙一准教授就任辞退により、後任として、(専) 三友秀之准教授がソフトウェア科学特別研究、ソフトウェア科学論文講読、博士海外研究及び海外留学を担当する。
- ・平成29年 6月 (専) 津田真寿美准教授昇任(講師→准教授)。新たに海外留学を担当する。
- ・平成30年 4月 新たに(専) 上木岳士准教授就任。

- ・平成29年 9月 (専) 三友秀之准教授昇任(助教→准教授)。(専) 新倉謙一准教授の後任)
- ・平成29年 3月 (専) 水谷武臣助教就任辞退により、後任として、(専) 石原誠一郎助教がソフトウェア科学特別研究、ソフトウェア科学論文講読及び博士海外研究を担当する。
- ・平成30年 3月 (専) 古澤和也助教就任辞退。ソフトウェア科学特別研究、ソフトウェア科学論文講読及び博士海外研究については、いずれの科目も当該教員以外の専任教員が担当するため、支障はない。
- ・平成29年 4月 新たに(専) 塚本卓助教就任。
- ・平成29年10月 (専) 石原誠一郎助教就任。(専) 水谷武臣助教の後任)
- ・平成30年 3月 (兼担) 櫻木直也教授就任辞退により、後任として、(兼担) 綾部時芳教授が特別講義を担当する。
- ・平成30年 3月 (兼担) 山本条太郎教授就任辞退により、後任として、(兼担) 綾部時芳教授が特別演習を担当する。
- ・平成30年 3月 (兼担) 尾瀬農之准教授就任辞退により、後任として、(兼担) 綾部時芳教授が特別実習を担当する。
- ・平成30年 3月 (兼担) 中村公則准教授就任辞退により、後任として(兼担) 樋口直樹教授が博士研究者のキャリア開発研究を担当する。
- ・平成30年 4月 新たに(兼担) 門出健次教授就任。
- ・平成30年 4月 新たに(兼担) 姚関教授就任。
- ・平成29年11月 (兼担) 上原亮太准教授昇任(助教→准教授)。

- (注) ・ 変更内容を簡条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ **認可で設置された学部等の専任教員を変更する場合は**、当該専任教員が授業を開始する前に必ず「専任教員採用等設置計画変更書」を提出し、大学設置・学校法人審議会による教員資格審査(AC教員審査)を受けてください。**AC教員審査を受けずに専任教員として授業等を担当することは出来ません。**
 - ・ 「専任教員採用等変更書(AC)」を提出し「可」の教員判定を受けている場合は「〇年〇月教員審査済」と記入してください。なお、設置認可審査時に教員審査となっている場合は、「教員審査省略」と記入してください。
 - ・ 不要な年度(平成28年度開設であれば平成27年度、平成29年度開設であれば平成27年度及び平成28年度、平成30年度開設であれば平成27年度から平成29年度)の表は適宜削除してください。

(2) 専任教員数等

(2)-① 設置基準上の必要専任教員数

完成年度時における設置基準上の必要研究指導教員数	うち、完成年度時における設置基準上の必要教授数	完成年度時における設置基準上の必要研究指導補助教員数
4	3	3
名	名	名

(注) ・ 大学院に専攻ごとに置くものとする教員の数について定める件（平成十一年九月十四日文部省告示第百七十五号）により算出される教員数を記入してください。

(2)-② 専任教員数

設置時の計画					現在（報告書提出時）の状況					現在（報告書提出時）の完成年度時の計画				
教授	准教授	講師	助教	計(A)	教授	准教授	講師	助教	計(B)	教授	准教授	講師	助教	計(C)
5	4	3	7	19	7	5	2	5	19	7	5	2	5	19
(7)	(5)	(2)	(5)	(19)						[2]	[1]	[Δ 1]	[Δ 2]	[0]
研究指導教員数	研究指導補助教員数	講義のみ担当の教員数			研究指導教員数	研究指導補助教員数	講義のみ担当の教員数			研究指導教員数	研究指導補助教員数	講義のみ担当の教員数		
12	7	0			14	5	0			14	5	0		
(14)	(5)	(0)								[2]	[Δ 2]	[0]		

(注) ・ 「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、() 内に開設時の状況を記入してください。
 ・ 「現在（報告書提出時）の状況」には、報告書提出年度の5月1日の教員数（実人数）を記入してください。
 ・ 「現在（報告書提出時）の完成年度時の計画」には、「現在（報告書提出時）の状況」に記入した数字に、教員審査を要済みであり、完成年度までに就任する教員数を加えた数を記入するとともに、[] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：Δ1）

(2)-③ 年齢構成

年齢構成		
定年規定の定める定年年齢（歳）	報告書提出時（上記(B)）の教員のうち、定年を延長して採用している教員数	完成年度時（上記(C)）の教員のうち、定年を延長して採用する教員数
65	0	0
歳	名	名

(注) ・ 「年齢構成」には、当該学部における教員の定年に関する規定に基づく定年年齢（特例等による定年年齢ではありません）、および、平成30年5月1日現在、定年に関する規定に基づく特例等により定年を超えて専任教員として採用されている教員数および完成年度時に定年を超えて専任教員として採用する教員数を記入してください。
 ・ なお、職位等によって定年年齢が異なる場合には、職位ごとの定年年齢を「定年規定の定める定年年齢」に二重書きで記入し、「定年を延長している教員数」には合算した数を記入してください。
 ・ 専門職大学院の場合は、「研究指導教員」を「研究者教員」と、「研究指導補助教員」を「実務家教員」と修正して記入してください。

(2)-④ 設置時の計画に対する教員充足率

$$\frac{\text{現在（報告書提出時）の完成年度時の計画(C)}}{\text{設置時の計画(A)}} = \frac{19}{19} = \boxed{100} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2)-⑤ 現在（報告書提出時）の状況における定年を延長している教員構成率

$$\frac{\text{報告書提出時の教員のうち、定年を延長して採用している教員数}}{\text{現在（報告書提出時）の状況(B)}} = \frac{0}{19} = \boxed{0} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

〈博士後期課程〉

(3) 専任教員辞任等の理由

(3) - ① 専任教員の就任辞退（未就任）の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	就任辞退（未就任）の理由	
1	准教授	新倉 謙一	必修	ソフトマター科学特別研究	①	他機関転出のため就任辞退（30）	
			選択	ソフトマター科学論文講読	①		
			選択	博士海外研究	①		
			選択	海外留学	①		
2	助教	水谷 武臣	必修	ソフトマター科学特別研究	①	他機関転出のため就任辞退（30）	
			選択	ソフトマター科学論文講読	①		
			選択	博士海外研究	①		
3	助教	古澤 和也	必修	ソフトマター科学特別研究	①	他機関転出のため就任辞退（30）	
			選択	ソフトマター科学論文講読	①		
			選択	博士海外研究	①		
合計（D）				後任補充状況の集計（E）			
就任を辞退した教員数		担当科目数の合計（a）+（b）+（c）		①の合計数（a）	②の合計数（b）	③の合計数（c）	
3	人	必修	3 科目	必修	3 科目	必修	0 科目
		選択	7 科目	選択	7 科目	選択	0 科目
		自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目
		計	10 科目	計	10 科目	計	0 科目

- (注) ・ 認可時又は届出時以降、就任を辞退した全ての専任教員の就任辞退の理由を具体的に記入してください。
- ・ 「就任辞退（未就任）」とは、認可又は届出時に就任予定としながら、実際には就任しなかった教員のことです。就任した後に辞任した教員は、以下「(3) - ②専任教員辞任の理由及び後任補充状況」に記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに就任を辞退した場合、赤字にて記入するとともに、「就任辞退（未就任）の理由」に就任辞退の理由等および（ ）書きで報告年度を記入してください。
- ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
- ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
- ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) - ② 専任教員辞任の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由	
						該当なし	
合計（F）				後任補充状況の集計（G）			
辞任した教員数		担当科目数の合計（a）+（b）+（c）		①の合計数（a）	②の合計数（b）	③の合計数（c）	
0	人	必修	科目	必修	科目	必修	科目
		選択	科目	選択	科目	選択	科目
		自由	科目	自由	科目	自由	科目
		計	科目	計	科目	計	科目

- (注) ・ 一度就任した後に、定年による退職以外の理由で辞任した全ての専任教員について記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等および（ ）書きで報告年度を記入してください。
- ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
- ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
- ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) -③ 上記(3) -① ・ (3) -② の合計

合計 (D) + (F)				後任補充状況の集計 (E) + (G)							
辞任等した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)		①の合計数 (a)		②の合計数 (b)		③の合計数 (c)			
3	人	必修	3 科目	必修	3 科目	必修	0 科目	必修	0 科目		
		選択	7 科目	選択	7 科目	選択	0 科目	選択	0 科目		
		自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目		
		計	10 科目	計	10 科目	計	0 科目	計	0 科目		

(3) -④ 設置時の計画に対する教員辞任率

$$\frac{(3) - ③ \text{合計}(D) + (F)}{(2) - ② \text{設置時の計画}(A)} = \frac{3}{19} = 15.78 \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) -⑤ 定年により退職した専任教員に対する後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由			
						該当なし			
合計				後任補充状況の集計					
辞任した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)		①の合計数 (a)		②の合計数 (b)		③の合計数 (c)	
0	人	必修	科目	必修	科目	必修	科目	必修	科目
		選択	科目	選択	科目	選択	科目	選択	科目
		自由	科目	自由	科目	自由	科目	自由	科目
		計	科目	計	科目	計	科目	計	科目

- (注) ・ 定年により退職した全ての専任教員について記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等および()書きで報告年度を記入してください。
 - ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 専任教員が担当する(している)場合は「①」 ・ 兼任兼担教員が担当する(している)場合は「②」 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」 |
|---|

(4) 専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

<p>設置時に、准教授1名及び助教2名が就任辞退しているが、当該教員の担当予定科目は、同じ研究分野の教授、准教授、講師、助教及び後任補充した准教授及び助教が研究指導を行うため、支障はない。また、募集要項配布時には辞退していたので学生に影響はない。(30)</p>

- (注) ・ 上記(3)の専任教員辞任等による学生の履修等への影響に関する「大学の所見」及び「学生への周知方法」を記入してください。

6 留意事項等に対する履行状況等

区 分	留 意 事 項 等	履 行 状 況	未履行事項について の実施計画
設 置 時 (30年4月)	該当なし		

- (注) ・ 「設置時」には、当該大学等の設置時（認可時又は届出時）に付された留意事項（学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る留意事項を除く。）と、それに対する履行状況等について、具体的に記入し、報告年度を（ ）書きで付記してください。
- ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該設置計画履行状況調査の結果、当該大学に付された意見を全て記入するとともに、付された意見に対する履行状況等について、具体的に記入してください。その履行状況等を裏付ける資料があれば、添付してください。
 - ・ 「履行状況」では、履行途中であれば「未履行」、履行済みであれば「履行済」を選択してください。
 - ・ 該当がない場合には、「該当なし」と記入してください。
 - ・ 「設置計画履行状況調査時」の（年月）には、調査結果を公表した月（通常2月）を記入してください。（実地調査や面接調査を実施した日ではありません。）

7 その他全般的事項

<大学院 生命科学院 ソフトマター専攻>

(1) 設置計画変更事項等

設置時の計画	変更内容・状況、今後の見通しなど
	該当なし

(注) ・ 1～6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの（未実施を含む。）及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。

(2) 教員の資質の維持向上の方策（FD・SD活動含む）

1. 高等教育推進機構運営委員会高等教育研修専門委員会

① 実施体制

a 委員会の設置状況

高等教育推進機構運営委員会高等教育研修専門委員会

b 委員会の開催状況（教員の参加状況含む）

高等教育推進機構運営委員会高等教育研修専門委員会（平成27年度2回開催，平成28年度1回開催，平成29年度1回開催）

c 委員会の審議事項等

教員、ティーチング・アシスタント、ティーチング・フェロー等に係る研修の企画、立案及び実施に関すること
職員に係る研修の企画、立案及び実施並びに研修情報の一元化に関すること
総合入試制度に係る進路支援、修学支援、学習支援、データ分析等に関すること
その他教職員等の研修に関すること

② 実施状況

a 実施内容

本学教職員を対象としたFD・SDの実施

b 実施方法

ワークショップ形式，講義形式，講演会等の本学教職員を対象としたFD・SDの実施

c 開催状況（教員の参加状況含む）

知って活用したい北大の教員支援制度（4/21，北大22名）

メンタルヘルスケア講演会～対学生メンタルヘルスケア編（5/15，北大28名，北大以外14名）

効果的なグループワークのためのファシリテーション入門ワークショップ（5/19，北大11名，北大以外10名）

講演会「『アクティブ・ラーニング時代』の大人数講義法の基本」（5/30，北大46名，北大以外34名）

講演会「授業準備と運営～学習者の認知・心理的側面から～」(6/14, 北大15名, 北大以外17名)

問いと学習環境を意識した授業づくりの方向性ワークショップ(北大7名, 北大以外6名)

第32回北海道大学教育ワークショップ(6/23-24, 北大15名, 北大以外2名)

メンタルヘルスケア講演会～対教職員メンタルヘルスケア編(6/26, 北大39名, 北大以外21名)

ルーブリック評価入門ワークショップ(7/5, 北大8名, 北大以外13名)

講演会「多様な学習動機への対応」(7/21, 北大22名, 北大以外16名)

講演会「発達障害のある学生の理解と対応」(共催)(8/8, 北大43名, 北大以外21名)

講演会「円滑な講義・演習のための高等教育における学びのユニバーサルデザイン」(共催)(8/9, 北大18名, 北大以外9名)

講演会「Practical use of IR data, and training researchers in charge of IR」(8/10, 北大21名, 北大以外10名)

授業運営の苦悩～解決策を探る(8/18, 北大5名, 北大以外6名)

Teaching in Englishワークショップ(8/21, 北大13名, 北大以外4名)

北海道FD・SDフォーラム2017(9/1, 北大35名, 北大以外63名)

シンポジウム「アクティブラーニングは日本の教育を変えるのか」(9/2, 北大17名, 北大以外66名)

Workshop on creating rubrics(9/8, 北大7名)

第33回北海道大学教育ワークショップ(9/14-15, 北大16, 北大以外5名)

アクティブラーニング導入ワークショップ(9/20, 北大7名, 北大以外7名)

ルーブリック評価入門ワークショップ(9/22, 北大12名, 北大以外14名)

講演会「伝わる話し方を心がけて」(10/23, 北大57名, 北大以外10名)

E L M S 講習会～授業でE L M Sを活用する～(11/10-13, 北大32名)

第34回北海道大学教育ワークショップ(11/17-18, 北大14名, 北大以外1名)

講演会「学習意欲を高め維持するプレゼンテーションの技法」(11/24, 北大45名, 北大以外22名)

Classroom management techniques for classes conducted in English(12/8, 北大12名, 北大以外1名)

シラバスのブラッシュアップ研修(12/9, 北大4名, 北大以外3名)

求められる学習支援を考える(12/15, 北大8名, 北大以外8名)

英文Eメールライティング研修(フォーマット編)(1/26, 北大14名, 北大以外5名)

英文Eメールライティング研修(表現編)(1/27, 北大16名, 北大以外4名)

英語コミュニケーション研修(リスニング編)(2/16, 北大25名, 北大以外3名)

英語コミュニケーション研修(スピーキング編)(2/17, 北大22名, 北大以外3名)

アクティブラーニング導入ワークショップ(2/21, 北大7名, 北大以外2名)

ルーブリック評価入門ワークショップ(2/22, 北大11名, 北大以外6名)

英語プレゼンテーション研修(3/6-7, 北大4名)

アカデミック・ライティング研修(3/14, 北大10名, 北大以外2名)

改めて教育の質保証を検討する(3/15, 北大3名, 北大以外14名)

FD・SD研修企画マネジメント(3/15, 北大8名, 北大以外9名)

北海道地区国立大学法人等初任職員研修(4/12-14, 北大52名, 北大以外26名)

初任事務職員英語研修(6/6-7/27, 北大49名)

初任事務職員実地研修(8/22-9/1, 北大49名)

初任事務職員フォローアップ研修(11/10, 北大47名)

北海道地区国立大学法人等中堅職員研修(6/12-14, 北大22名, 北大20以外名)

北海道地区国立大学法人等係長研修(12/13-15, 北大17名, 北大以外16名)

北海道地区国立大学法人等会計基準研修(10/11-13, 北大24名, 北大以外15名)

会計実務研修(7/24-26, 北大15名)

事務職員英会話研修(5/19-12/15, 北大16名)

事務職員海外語学研修(ニュージーランド)(10/6-11/19, 北大1名)

事務職員海外語学研修(カナダ)(10/22-12/21, 北大1名)

事務職員海外インターンシップ(9/30-3/26, 北大1名)

事務職員TOEICスコアアップ研修(10/17-12/5, 北大15名)

事務職員英会話スキルアップ研修（10/18-12/6，北大16名）
 事務職員英会話スクール利用研修（10/2-1/21，北大17名）
 事務職員eラーニング利用研修（7/1-12/31，北大81名）
 TOEIC-IPテスト（希望者）（2回）（8/28・1/29，北大83名）
 事務職員海外短期集中研修（2回）（8/21-9/1，11/13-17，北大4名）
 北海道地区国立大学法人等学生支援担当職員SD研修（12/14-15，北大8名，北大以外12名）
 北海道地区学生指導研修会（8/24-25，北大10名，北大以外32名）
 教務事務実務研修（11/9-10，北大18名）
 北海道大学における学生対応に関する研修会（2/8，北大65名）
 北海道地区国立大学法人等事務情報化講習会（Access初級編）（7/24-25，北大16名，北大8以外名）
 北海道地区国立大学法人等アドバイザー・トレーナー研修（10/16-17，北大19名，北大以外1名）
 利用支援課新任担当者実務研修（4/5-7，北大19名）
 附属図書館新任職員SD研修（4/17，北大11名）
 北海道地区大学図書館職員フレッシュ・パーソン・セミナー（9/14-15，北大7名，北大以外11名）
 北海道地区国立大学法人等施設担当職員研修会（10/12-13，北大2名，北大以外14名）
 北海道地区国立大学法人等技術職員研修（8/23-25，北大29名，北大以外6名）
 ユニバーシティ・アドミニストレーター育成講座（9/7-11/14，北大9名）
 「プレゼンテーション」講座（2/14，北大11名）
 メディアトレーニング講座（9/12，北大31名）
 プレスリリース講座（11/21，北大58名）
 北海道地区大学SD研修「大学職員セミナー」（11/6-7，北大7名，北大以外27名）

d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況

各FD終了後にアンケートを実施し、参加者の傾向や満足度等を分析し、次回以降の同行事の改善に役立てている。

③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況

a 実施の有無及び実施時期

全学教育科目に係る学生による授業評価アンケートを紙面にて実施している。毎年度、第1学期と第2学期に実施している。

b 教員や学生への公開状況、方法等

全学教育科目に係る学生による授業アンケート報告書を作成し、高等教育推進機構のホームページに公表している。

第1学期と第2学期のデータを併せて1年分の結果を教員本人と教員の所属部署長、科目責任者へ通知している。また、アンケートの質問項目に対する回答結果及び学生の自由意見を受けて、各教員や科目責任者に報告書を提出してもらい、提出されたものの中から授業改善への効果があるものや他の教員の参考になる事例等を高等教育推進機構のホームページで公表している。

2. 大学院生命科学院FD委員会

① 実施体制

a 委員会の設置状況

大学院生命科学院FD委員会（生命科学院のFDの実施及び授業アンケートの内容を検討）

b 委員会の開催状況（教員の参加状況含む）

大学院生命科学院FD委員会（平成30年度の開催は未定。ここ数年は、学院長及びFD委員会委員長がFDの内容を企画している。授業アンケートについては、しばらくは内容の見直しは行われない見込み。）

c 委員会の審議事項等

大学院生命科学院FD委員会

教育研究活動改善の方策に関する事項

初任者及び現任者の研修計画の立案・実施に関する事項

学生による授業評価の実施、結果分析及びフィードバックに関する事項

教育支援体制に関する事項

その他学院教授会若しくは学院長から諮問又は付託された事項

② 実施状況

a 実施内容

1. 平成29年度大学院生命科学院・理学院合同FD研修会「新渡戸スクールについて」
2. 平成29年度大学院生命科学院・理学部・理学院合同FD研修会「新渡戸ポートフォリオについて」
3. 平成29年度大学院生命科学院・理学院合同FD研修会「CJM（カスタマー・ジャーニー・マップ）から見た学生キャリア意識の遍歴」
4. 平成29年度理学部・理学院・生命科学院・総合化学院合同FD研修会

b 実施方法

1. 新渡戸スクールの教頭及び担当教員を招き講演、意見交換
2. ウェブを利用したICT学習支援システム（新渡戸eポートフォリオ）の概要紹介、及び実演の見学・参加
3. 大学本部のURAを招き講演、討論
4. 高等教育推進機構オープンエデュケーションセンターの教員等を招き講演、討論

c 開催状況（教員の参加状況含む）

1. 平成29年 9月 1日（金） 参加者：生命科学院，理学院に所属する教員65名，事務職員6名
2. 平成29年 9月14日（木） 参加者：生命科学院，理学部，理学院に所属する教員20名，事務職員6名
3. 平成29年 9月28日（木） 参加者：生命科学院，理学院に所属する教員45名，事務職員4名
4. 平成30年 3月14日（水） 参加者：生命科学院，理学部，理学院，総合化学院に所属する教員56名，事務職員3名

d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況

生命科学院では毎年FDを実施しており、多くの教員がFDに参加している。

各FD終了後にはアンケートを実施し、参加者の傾向や満足度等を分析し、次回以降の同行事の改善に役立てている。

③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況

a 実施の有無及び実施時期

有（生命科学院開講授業科目の学生アンケートの実施・評価）、毎年度、第1学期と第2学期に実施している。

b 教員や学生への公開状況、方法等

授業担当教員には集計したものをデータで提供。アンケートの質問項目に対する回答結果及び学生の自由意見を受けて各教員にコメントを提出してもらい、理学情報（部局内掲示版）に公開している。

（注）・「①a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。

「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。（記入例参照）

(3) 自己点検・評価等に関する事項

① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

ソフトマターは、柔らかい物質・材料群に対する総称かつ概念である。高分子、液晶、ゲルといった既存の生体物質が代表的である一方で、今日では、生命科学分野から物質・情報科学という他の基盤分野との統合・融合が可能となり、技術の組み合わせ次第では、革新的ソフトマターの発見が期待できる成長分野として注目を集めている。この成長を加速させるため、生命科学と物質科学を理論と実験の両面から体系的に学ぶことができる教育環境を整備し、ソフトマター研究が可能な人材を輩出することが求められている。

本学においては、これまでの他に類を見ない研究実績と、受け継がれてきた教育実績を踏まえ、こうした革新的ソフトマターの研究開発に貢献するリーダーを育成するために、ソフトマター専攻を新設した。なお、本学に先行設置されたGI-CoRE（国際連携研究教育局）ソフトマターグローバルステーション研究拠点の教員がソフトマター専攻の専任教員となり、修士課程・博士後期課程の教育・研究指導に当たる体制が構築されている。

② 自己点検・評価報告書

a 公表（予定）時期

- ・平成33年度に作成・公表予定

b 公表方法

- ・大学（本学院）ホームページ上に公開予定

③ 認証評価を受ける計画

- ・本学では、平成27年度に大学評価・学位授与機構が実施する大学機関別認証評価を受審したところであり、平成33年度に次回の認証評価（大学改革支援・学位授与機構が実施）を受審する予定である。

(注) ・ 設置時の計画の変更（又は未実施）の有無に関わらず記入してください。

また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。

なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

(4) 情報公表に関する事項

○ 設置計画履行状況報告書

a ホームページに公表（予定）の有無

(有 無)

b 公表（予定）有の場合の公表（予定）時期

(平成30年 6月 1日)

(注) ・ 「a ホームページに公表（予定）有無」には、5月1日時点で公表している場合、もしくは、今後公表する予定の場合は、「有」にマルを記入してください。今後も公表する予定がない場合は、「無」にマルを記入してください。

・ 「b 公表（予定）有の場合の公表（予定）時期」には、「a ホームページに公表（予定）有無」で「有」にマルを記入した場合のみ、時期を記入してください。

国立大学法人北海道大学高等教育推進機構運営委員会高等教育研修専門委員会内規

(平成 27 年 4 月 1 日制定)

(趣旨)

第 1 条 この内規は、国立大学法人北海道大学高等教育推進機構規程（平成 22 年海大達第 243 号）第 30 条第 3 項の規定に基づき、国立大学法人北海道大学高等教育推進機構運営委員会高等教育研修専門委員会（以下「委員会」という。）の組織及び運営について定めるものとする。

(審議事項)

第 2 条 委員会は、次に掲げる事項について審議する。

- (1) 教員、ティーチング・アシスタント、ティーチング・フェロー等に係る研修の企画、立案及び実施に関する事。
- (2) 職員に係る研修の企画、立案及び実施並びに研修情報の一元化に関する事。
- (3) 総合入試制度に係る進路支援、修学支援、学習支援、データ分析等に関する事。
- (4) その他教職員等の研修に関する事。

(組織)

第 3 条 委員会は、次に掲げる委員をもって組織する。

- (1) 高等教育研修センター長（第 5 条において「センター長」という。）
 - (2) 高等教育研修センター副センター長（第 5 条において「副センター長」という。）
 - (3) 文学部、教育学部、法学部、経済学部、文学研究科、法学研究科、教育学院、国際広報メディア・観光学院、経済学院及び公共政策学教育部の教授又は准教授のうちから 2 名
 - (4) 理学部、工学部、農学部、水産学部、情報科学研究科、水産科学院、環境科学院、理学院、農学院、生命科学院、工学院、総合化学院及び国際食資源学院の教授又は准教授のうちから 2 名
 - (5) 医学部、歯学部、薬学部、獣医学部、保健科学院、医学院、歯学院、獣医学院、医理工学院及び国際感染症学院の教授又は准教授のうちから 2 名
 - (6) 高等教育推進機構の教授又は准教授のうちから 若干名
 - (7) 総務企画部長
 - (8) 学務部長
 - (9) その他機構長が必要と認めた者
- 2 前項第 3 号から第 6 号まで及び第 9 号の委員は、機構長が委嘱する。

(任期)

第 4 条 前条第 1 項第 3 号から第 6 号まで及び第 9 号の委員の任期は、2 年とする。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

- 2 前項の委員は、再任されることができる。

(委員長)

第 5 条 委員会に委員長を置き、センター長をもって充てる。

- 2 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。
- 3 委員長に事故があるときは、あらかじめ委員長の指名した副センター長がその職務を代行する。

(議事)

第 6 条 委員会は、委員の 3 分の 2 以上の出席がなければ議事を開くことができない。

- 2 委員会の議事は、出席委員の過半数をもって決するものとする。

(代理者)

第 7 条 第 3 条第 1 項第 3 号から第 6 号までの委員に事故があるときは、代理者を出席させることができる。

2 前項の代理者は、当該教育研究組織の教授又は准教授とする。

(委員以外の者の出席)

第8条 委員会が必要と認めたときは、委員会に委員以外の者の出席を求め、説明又は意見を聴くことができる。

(委員会の庶務)

第9条 委員会の庶務は、学務部学務企画課において、事務局各課の協力を得て処理する。

(雑則)

第10条 この内規に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、委員会が定める。

附 則

この規程は、平成27年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成29年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成30年4月1日から施行する。

北海道大学大学院生命科学院FD委員会内規

平成18年4月1日 制定

(設置)

第1条 北海道大学大学院生命科学院組織運営内規(平成18年4月1日制定)第16条第2項の規定に基づき、生命科学院(以下「本学院」という。)に学院FD(ファカルティ・ディベロップメント)委員会(以下「委員会」という。)を置く。

(審議事項)

第2条 委員会は、次に掲げる事項について審議、調査及び連絡調整する。

- (1) 教育研究活動改善の方策に関する事項
- (2) 初任者及び現任者の研修計画の立案・実施に関する事項
- (3) 学生による授業評価の実施、結果分析及びフィードバックに関する事項
- (4) 教育支援体制に関する事項
- (5) その他学院教授会若しくは学院長から諮問又は付託された事項

(組織)

第3条 委員会は、次に掲げる者をもって組織する。

- (1) 学院長が指名する副学院長 1名
- (2) 学院代議員

(任期)

第4条 前条第2号の委員の任期は、1年とする。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(委員長)

第5条 委員会に委員長を置き、学院長が指名する副学院長をもって充てる。

- 2 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。
- 3 委員長に事故があるときは、あらかじめ委員長の指名した委員がその職務を代行する。

(委員以外の者の出席)

第6条 委員会が必要と認めたときは、委員会に委員以外の者の出席を求め、説明又は意見を聴くことができる。

(専門部会)

第7条 委員会に、専門的事項を調査検討するため、専門部会を置くことができる。

- 2 専門部会に関し必要な事項は、別に定める。

(庶務)

第8条 委員会の庶務は、理学・生命科学事務部において処理する。

(雑則)

第9条 この内規に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、委員会が定める。

附則

この内規は、平成18年4月1日から施行する。